

設置の趣旨等を記載した書類

九州大学芸術工学部

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 学部・学科等の特色	5
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	8
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	9
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	17
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	19
7. 施設、設備等の整備計画	22
8. 入学者選抜の概要	24
9. 取得可能な資格	30
10. 海外留学等の具体的計画	31
11. 2以上の校地において教育研究を行う場合の 具体的計画	35
12. 管理運営	36
13. 自己点検・評価	38
14. 情報の公表	40
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	41
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	42

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の趣旨・必要性

九州大学芸術工学部は、前身である九州芸術工科大学が、平成15年10月に九州大学と統合したことにより誕生した学部である。本学部は、昭和43年4月の学部開設時は、環境設計、工業設計、画像設計、音響設計の4学科でスタートし、平成9年4月に芸術情報設計学科を設置して5学科体制となり、その後の大学統合や大学院の組織改編を経て20年以上が経過している。九州芸術工科大学と九州大学との統合からもすでに15年が経過しており、今では芸術工学部のみならず、九州大学全体にもデザインの感性を育てる教育が次第に浸透し、特色のある学生が育成されている。

その間、グローバル化、少子高齢化等大学を取り巻く社会構造が大きく変化し、地球環境問題の顕在化等から、経済活動の持続可能性が深刻に問われ、人間の生き方や生活のあり方について、価値観の転換を含め、人類がこれまでに経験したことがないような社会的課題が生じている。さらに、このような状況の中で、社会的な変化に伴いデザインの領域は拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している現状から「芸術工学」教育をあらためて見直す必要が出てきている。

デザインの対象は「モノ」から「コト」へ、さらに「ビジョン」へと拡大し、従来は形や色等、意匠的、表層的な成果を目的としてデザインが行われていたが、ユーザーエクスペリエンス（UX）を含む製品とサービス全体、あるいは、価値創造プロセス全体が領域となり、デザイン領域はビジネスモデル、社会システム等の仕組みへと広がった。さらに、現状の課題に対する解決に限らず、将来のあり得る、また、そうありたい社会のビジョン、「未来はこうもあり得るのではないか」という「問い」の創造までをデザイン概念が含むようになった。

また、デザインに関連する多くの企業への調査によれば、デザイン領域の変化に対応するためには、「高度デザイン人材」が求められていると言われている。その求められている高度デザイン人材とは、「社会を支えるシステムのあるべき姿を探るための将来像を示す」（日立）、「従来の枠を超える、領域にとらわれない」（パナソニック）、「デザインの枠自体がなくなり、モノからシステムや環境をデザインの主体とする」（ダイキン）、「商品デザインから、事業創出、研究開発、ブランディングまで広げる」（ソニー）、と言われるような領域を横断する能力を持つ人材であり、「人や社会、技術を理解し、人の経験や行動原理をベースに未来ビジョンを描き、それを実現する仕組みを考え、必要なサービス、商品や空間を総合的にデザインする」（富士通）、「30年先からの未来技術、生活文化を想像し、未来に生じる価値観や価値の源泉となる物事を見極めるためのスペキュラティブデザイナー」（デンソー）、と言われるような社会変化に柔軟に対応し将来の姿・仕組みを構想できる人材である。

このようなデザインの拡大、変化に対応し、社会が要請する高度デザイン人材を育成する教育を実施するためには、現在の教育課程に以下のような課題がある。

- ① 現状の芸術工学部は、50年前に「モノ」のデザインを想定した4学科と20年前に勃興してきたデジタル技術に対応した1学科の、5学科で構成されている。これらのデザイン分野は現在でも必要とされている一方で、上記のようなデザイン領域の拡大に十分に対応できていない。
- ② 領域を超え、横断的な人材が求められていることに対して、芸術工学部における教育課程が学科という壁で固定されているため、横断的な教育プログラムの編成が困難になっている。
- ③ 今後もデザイン領域の流動性はさらに高まる中、固定的な学科制では必要な教育内容の変化に十分に対応できない。

以上のような課題に応えるため、教育課程を見直すこととし、以下の4つの基本方針を定め、以下で詳述するように、現行の5学科を1学科に統合し、その中に緩やかに並列する5コースを設け、これまでの芸術工学の学問的アイデンティティを継承しつつ、拡大し流動化するデザイン領域に対応す

るための芸術工学部の改組を実施することとした。

【学部改組の基本方針】

- ① 変化に対応できる柔軟な組織とするため、教育課程及び教員・学生の流動性を向上させ、拡大変貌を続ける芸術工学・デザイン分野の多様性に対応する教育組織とする。
- ② 変化に対応する一方で、芸術工学の学問的アイデンティティを強化し、50年間芸術工学が培ってきた専門性を担保し、そのレガシーを次の50年に向けて継承する。
- ③ 世界のグローバル化に沿った教育の国際化を進めるとともに、国内外の多様な価値を包摂する教育を推進する。
- ④ イノベーション創出に対応する教育の一層の充実を図るため、創造性を育む新しいデザイン教育を開発し、新しい科目を提供する。

この4つの基本方針は、九州大学の基本理念である「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となる」の実現を念頭に策定したもので、4つの基本方針を踏まえた学部改組により、芸術工学のアイデンティティの基盤となるデザインリテラシー教育を体系化し、従来のデザイン領域の枠を超える広範なスキルと知識をもつ、高度デザイン人材の育成に取り組む。このデザインリテラシー教育の体系化は、さまざまな専門分野の学生が、時代に対応したデザインの感性を身に付けるための、九州大学全体のデザイン教育を高める役割も果たす。

(2) 教育上の目的

芸術工学部は、「技術の人間化」を実践する学部として、工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察や、社会の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を有する創造性あふれる高度デザイン人材の育成を目的とする。

(3) 学位授与の方針

I) 九州大学教育憲章

九州大学は、教育活動の基本理念を「教育憲章」に掲げ、九州大学が行う教育の目的を「日本の様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献する」と定めている。また、九州大学の教育により、秀でた人間性、社会性、国際性、専門性を有する人材を育成するために、4つの原則（人間性の原則、社会性の原則、国際性の原則、専門性の原則）を設け、全学一体となって上記の教育目的及び原則の達成に取り組んでいる。

II) 本学部の学位授与の方針

本学部は、九州大学教育憲章に定める教育の目的と4つの原則（人間性の原則、社会性の原則、国際性の原則、専門性の原則）及び本学部における教育上の目的を踏まえて、次に掲げる「芸術工学」の基本・基礎を十分に理解し、社会的な要請に応える創造性あふれる高度デザイン人材を育成する。改組後の本学部は、芸術工学科の1学科となるため、学科も同様の方針となる。さらに各コースで掲げる到達目標を達成した学生に対して、学士の学位を授与する。

- ・芸術工学に関連する様々な専門知識を総合的に活用しながら社会の課題を発見・提起する能力。
- ・広い視野に立って他者と協力しながら課題の解決に向けて取り組む能力。
- ・課題の解決のためのプロセスを明確にし、企画・実践する能力。
- ・自らの感性や専門的知識を有効に活用しつつ、考えを効果的に表現・伝達する能力。

○ 環境設計コース

A) 関心・意欲・態度

- ・多様化する環境に関する諸問題に対し自ら継続的かつ主体的な関心を有する。

B) 知識・理解

- ・建築、都市、地域、ランドスケープに関する専門知識を有する。

C) 能力・技能

- ・環境を読み解く力、社会調査スキル、科学的思考力、表現能力、分析する力等の基礎的な能力を有する。
- ・時間、空間、他者、自然に対する想像力を持ち、広い視点から人間を取り巻く環境をより良いものにするための設計・計画・制度立案等の実践的解決能力を有する。

○ インダストリアルデザインコース

A) 関心・意欲・態度

- ・人の生活や社会を支える「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」に主体的な関心を有する。

B) 知識・理解

- ・人間の特性及び論理的にデザインを創造する、幅広い専門知識を有する。

C) 能力・技能

- ・感性的・工学的・科学的アプローチを統合する能力を有する。
- ・創造した成果を説明・伝達でき、社会で実践できる能力を有する。

○ 未来構想デザインコース

A) 関心・意欲・態度

- ・既成概念にとらわれることなく、新たなデザインの分野を切り拓こうとする挑戦的な態度を持ち、実践しながら探求、実証しようとする志向性を有する。

B) 知識・理解

- ・芸術、技術、思想の歴史と理論を理解し、現代の社会や人間のありようを説明し、未来社会を構想するために必要な知識を有する。

C) 能力・技能

- ・情報科学を理解し、自然や社会における多様な現象を情報として数理科学的に捉える能力を持ち、生命現象の背後にある自然の仕組みを理解する能力を有する。
- ・芸術的表現方法を修得し、豊かな発想、デザイン実践に結びつける創造的能力を有する。
- ・新しい分野を切り拓き、新しいものをイメージし、文脈を作り、それを表現できる能力を有する。

○ メディアデザインコース

A) 関心・意欲・態度

- ・メディアとコミュニケーションのデザインによって、新しい表現を創出しようとする関心と意欲を有する。
- B) 知識・理解
- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザインの知識、そのデザインや研究領域に応用できる数理工学的知識、人間の心理や、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる知識を有する。
- C) 能力・技能
- ・メディアとコミュニケーションのデザイン、コンテンツ創成に必要な表現能力、およびプログラミング能力を有する。
 - ・好奇心を持って対象を観察し、その結果を構成し、様々なメディアを使って表現する能力を有する。

○ 音響設計コース

- A) 関心・意欲・態度
- ・音に関連する芸術、科学、技術のすべての分野に関心を持ち、それらの専門的知識を自発的に修得して、自らの専門性を継続的に発展させる意欲を有する。
- B) 知識・理解
- ・音響設計の専門家として必要な音に対する感性と、音に関連する文化、環境、情報の各分野についての専門的知識を有する。
- C) 能力・技能・実践
- ・音に関連する芸術、科学、技術的な側面と人間や社会との関わりを理解し、専門的知識を応用して総合的かつ実践的に課題を解決する能力を有する。

(4) 中心となる学問分野

本学部の教育研究で中心となる学問分野は「芸術工学」である。芸術工学は「技術の人間化」を理念として、科学技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基盤である科学と、人間精神の最も自由な発現である芸術とを統合し、その全体的な精神によって技術の進路を計画し、その機能の設計について研究する学問分野であり、本学部の前身である九州芸術工科大学の開学当初からの学問的中心であった。その内容は、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする高次のデザインで構成される。

芸術工学は、九州芸術工科大学開学当初は環境設計、工業設計、画像設計及び音響設計の4つの専門分野を軸とし、この半世紀の間に誕生した新たな専門分野、境界領域、今後拡大していくデザイン領域を含めて拡大充実している（図1）。

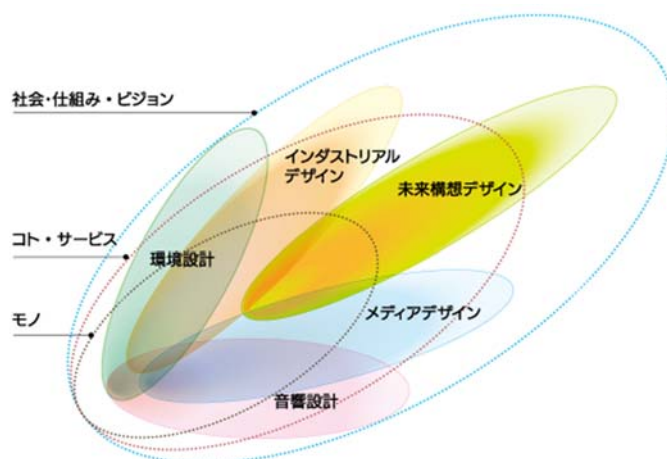


図1： 拡大するデザイン領域のイメージ

2. 学部・学科等の特色

(1) 学部の特色

近年、高度情報化、経済のグローバル化をはじめとする社会構造が大きく変化し、人間の生き方や生活の在り方について、価値観の転換を含め、環境問題等人類がこれまで経験したことがないような新たな課題が生じており、さらに、デザインの領域でも、図1のように、デザインの対象がモノからコトへ、ビジョンへと変化拡大が続いている。

改組後の芸術工学部は、このようなデザイン領域の変化に合わせて教育内容を再編成するだけでなく、不断に変化し続ける状況に対応することが可能な柔軟な組織、カリキュラムを特色としている。

(2) コース制の導入

上記のような特色を備えた学部組織とするため、現行の5学科制を改組し、1学科5コース制に改める(図2)。

この5コースは、図1に示すように従来のモノを中心とするデザイン領域から、コト・サービス、社会・仕組み・ビジョンへ広がる領域に対応する。特に新しく、これからも強く流動するであろう領域は「未来構想デザイン」コースが対応し、近未来の社会の「あるかもしれない」姿に関する「問い」も含めて対象とする。サービス、UX(「ユーザーエクスペリエンス」)等の「コト」のデザインは、「インダストリアルデザイン」コースが主に扱い、対象・課題によっては他の4コースでもカバーする。「メディアデザイン」コースでは、画像設計と芸術情報設計を統合し、総合的なメディアデザインを目指す。「環境設計」、「音響設計」の2コースは、明確な志望動機を持つ受験生を多く受け入れており、これまでの教育内容を強化しつつ、コトやビジョンのデザインへと展開する。

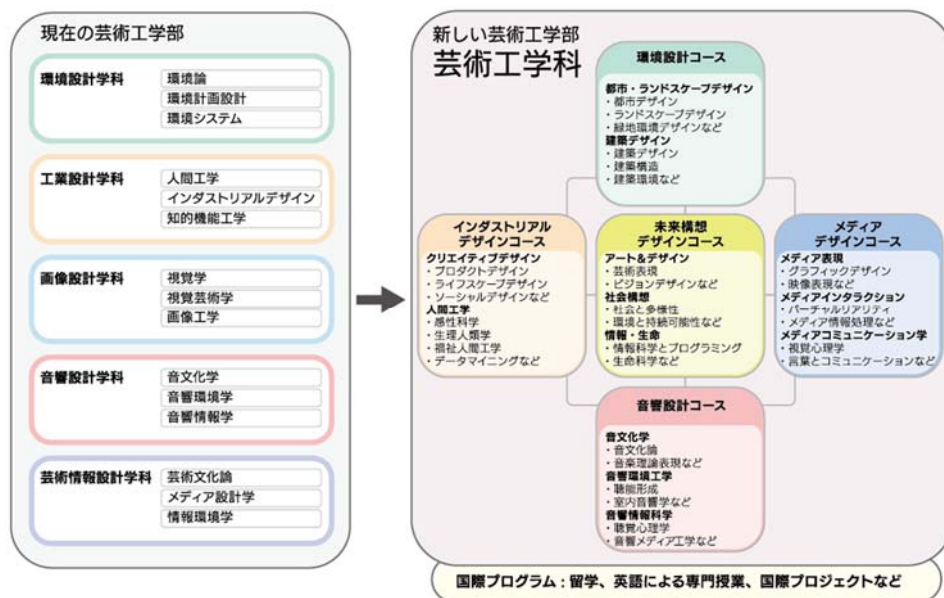


図2： 5学科から1学科5コース制への移行

コース制の導入により、従来実質的には各学科で設計・運営していた個々のカリキュラムを、学部として一元的に設計・運営することが可能となり、分野横断的な教育プログラムの実施や、デザイン領域の変化や学生のニーズにも柔軟に対応可能となる。

具体的には、

- (1) 学生は、芸術工学における基幹的な教育（デザインリテラシー教育）の履修を通じて、コースとして設置するデザイン各分野の融合の基盤を修得する。
- (2) 各学科で設けられていた必修科目を大幅に削減することで各コースのカリキュラムの柔軟性を高める。これにより、学生は興味、関心、問題意識や目的に従って、所属するコース以外から提供される特色のある科目の多様な履修が可能となる。
- (3) 芸術工学部の教育の大きな特徴であるPBL（課題解決型・プロジェクト型）科目を維持、発展させる。学生はそれぞれのコースのPBL科目だけでなく、新たに設ける複数のコースに所属する学生と教員が参加するPBL科目の履修を通じて、分野間の融合を進めることができる。
- (4) 学生は研究的興味の展開に伴って、他コースの研究室配属、複数教員による卒業研究指導を受けることが可能な体制とする。

また、各分野、コースの教員の配置、学生募集の面では、社会的な要請や学問分野の進展に即して、1学科制の中で教員や学生の配置を柔軟に調整することができる。人材の育成という面においては、1学科制カリキュラムは、学科固有の必修科目を多く含む複数学科制カリキュラムよりも、共通科目の配置や他分野科目の履修が容易となり、多様なバックグラウンドを持った人材の輩出が期待できる等が考えられる。

このようにコース制の導入により、全学生を対象とする質の高い芸術工学の基幹的な教育を行いつつ、「芸術工学」の基本となる専門性をしっかりと教育し、共通するカリキュラムを編成することで、より効果的・効率的な教育体制の構築と、異なる志向の学生や教員が協働して新たな価値の創出や課題解決に積極的に取り組む教育を展開する。

各コースの概要は表1のとおりである。

表1：コースの概要

コース名	コースの概要
環境設計コース	エコロジー、持続可能性、地域再生といった近年の課題に応えるため、人間をとりまく環境について多角的な知識を学び、両者の関係のありかたを考察して、芸術的センスあふれる建築、都市、地域、緑地、ランドスケープ等よりよい環境をデザインできる総合的な設計家を育成する。
インダストリアルデザインコース	社会とのつながりを踏まえ、人間の特性をさまざまな側面から理解し、技術の再編・統合も含めた生活者の立場からの新しい俯瞰的視点を備え、安全・安心で魅力的な「製品」「生活環境」「サービス」を創造するクリエイター、プランナー、エンジニア等も含む広義のデザイナーを育成する。
未来構想デザインコース	現代社会の複合的な課題と可能性に向き合うため、これまでデザインの対象とされてこなかった課題・領域における、人々や社会が持つ本質的な課題や欲求を捉え、そこに必要となるコトやサービス、ビジョンあるいは社会の在り方そのものを、芸術工学のディシプリンをツールとして総合的にデザインできる発想力・創造力を持ったデザイン人材を育成する。

メディアデザインコース	論理的な思考能力と芸術的感性あふれる表現能力を併せ持ち、メディアとコミュニケーションに関する問題を科学的かつ文化的視点で捉え、新しいメディアテクノロジーを応用し、創造的なデザインに積極的に挑戦できる、クリエイターをはじめとする高次のデザイナーを育成する。
音響設計コース	音文化を深く理解し、音に対する正しい評価、人間に適合した音環境の創出、音響情報の高品質化の推進に必要となる、音に対する鋭い感性と他分野との融合も視野に入れた高度な専門的知識を兼ね備えた、総合的な設計能力を有する人材を育成する。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部及び学科の名称

芸術工学部／芸術工学科 (School of Design / Department of Design)

本学部の前身である九州芸術工科大学の設立時より、従来の工学や芸術では解決できない分野、人間性を契機とする科学技術と芸術の総合による一つの独自性を持った専門分野、科学技術と人間の最も自由な発現である芸術を融合させた学問分野として、「芸術工学」を用いており、学部及び学科の名称とする。

(2) 学位の名称

学士 (芸術工学) (Bachelor of Design)

本学部における教育課程を修了した者には、工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察や、社会状況の変化に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を有することが期待される。この目的を達成するため、科学技術と人間の最も自由な発現である芸術を融合させた学問分野としての「芸術工学」に関する十分な知識と技術を獲得した者に授与する学位名を「学士 (芸術工学)」とする。

(3) 英語名称について

本学部における「芸術工学」は、芸術 (art) と科学技術 (technology) だけでなく、設計、人文・社会科学等の複合領域にまたがるものであり、設立時より使用している広義的な意味を包含する“Design”を英語名称とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の考え方

本学部のカリキュラムは大きく分けて、全学共通の基幹教育と学部独自の専攻教育からなる。全学共通の基幹教育では、新たな知や技能を創出し、未知の問題を解決していく上での幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学び、生涯にわたって自立的に学び続けるアクティブ・ラーナーの育成を目指し、初年次ー学部ー大学院ー社会へと続く学びの成長を支持する幹を作る体系的なカリキュラムとして機能する。(図3参照)

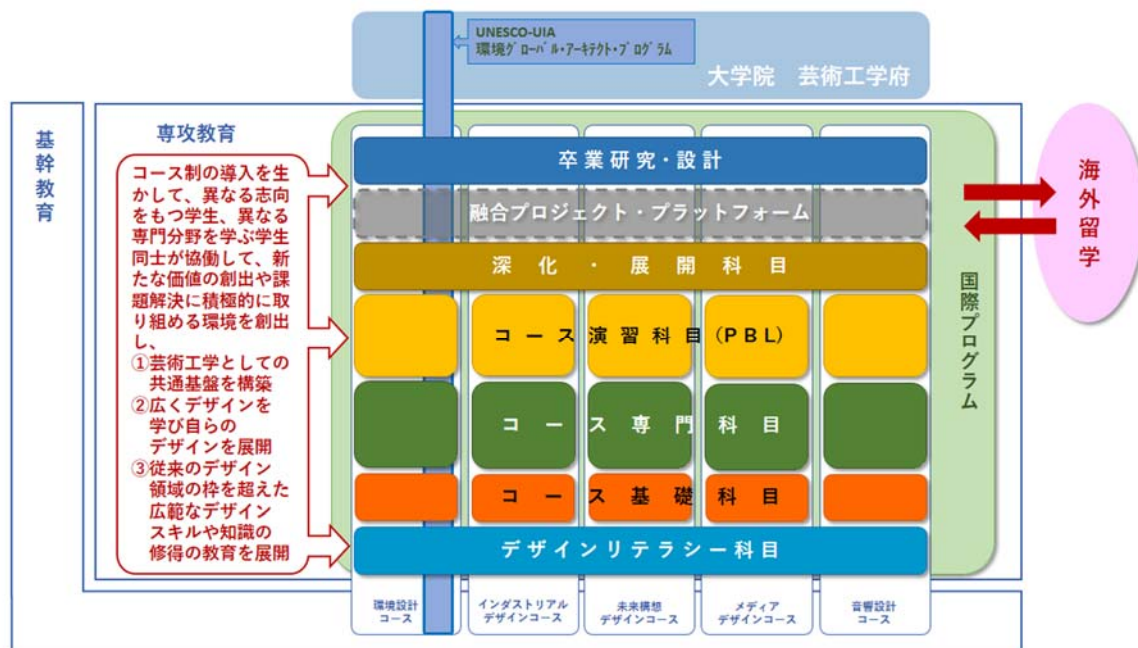


図3：改組後の教育体制

2年次からの学部専攻教育では、基幹教育で掲げる目的と目標を踏まえながら、芸術工学の学問的アイデンティティを強化しつつ、50年間芸術工学が培ってきた専門性を活かして、学生に基盤となる設計の知識や技能を身に付けさせるように、以下の方針で高度デザイン人材に必要な創造性を育むデザイン教育を構築する。改組後の本学部は、芸術工学科の1学科となるため、学科も同様の方針となる。

- ・多様化・複雑化している今日の社会課題を発見・提起できるように、芸術工学に関連する様々な専門知識を修得させる。
- ・広い視野に立って複数の専門分野の人々と協力しながら課題解決へ向かうための知識や技能を修得させる。
- ・新たな価値の創出や課題解決に向かうプロセスを明確化し、企画・実践するための知識や技能を修得させる。
- ・自らの感性や専門的知識を活用しながら、考え方を効果的に表現・伝達するための知識や技能を修得させる。

これらに加えて、各コースで掲げる目標に沿った高度デザイン人材を育成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

○ 環境設計コース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに環境設計の基礎スキルを培うための教育科目を配置する。
- ・その後、フィールドワーク等の学外実習や、実践的な設計プロジェクト演習を中心として、それを専門講義科目群が支えるカリキュラムによって、多様化する環境に関する諸問題や、建築、都市、地域、ランドスケープ等、幅広く専門的な知識と実践的な設計能力を修得させる。
- ・なお、一級建築士受験資格に対応し、大学院修士課程と接続して、国際的建築家資格への対応を図る。

○ インダストリアルデザインコース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、人の生活や社会を支える様々な設計対象に対応するための感性、工学、科学等の複数の考え方に基づいた基礎スキルを培うための教育科目を配置する。
- ・その後、人間の特性を理解し、論理的にデザインを創造するために、クリエイティブデザインと人間工学を核として専門科目に関する講義と演習を相互に行い、深い理解と知識・技術を修得させる。また、専門領域を横断したプロジェクトの学修を介して、高度な専門知識を融合し新しい価値を創造できる実践的な能力を修得させる。

○ 未来構想デザインコース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、新たなデザイン分野を切り開くために自然科学、情報科学、社会科学、アート・デザイン等の分野の基礎的な知識を修得させるための教育科目を配置する。
- ・その後、近い未来の社会のありようを想起するため、芸術、技術、思想の歴史と理論等の知識を修得させ、アート&デザイン、社会構想、情報・生命の科目群で構成していた専門科目によって未来を構想、デザインする能力を養う。また深化・展開科目として他コースの科目を集中的に履修することで具体的なデザイン対象に習熟し、融合プロジェクト・プラットフォームでの演習を通して実践的な知識やスキルを修得させる。

○ メディアデザインコース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、芸術表現やプログラミング言語、コミュニケーションに関わる基礎的な知識を修得させるための教育科目を配置する。
- ・その後、メディア表現、メディアインタラクション、メディアコミュニケーション学の3つの科目群を配置し、メディアとコミュニケーションのデザインや研究に応用できる数理的な知識、人の心理に関わる知識、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる専門的知識を修得させる。

○ 音響設計コース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、音に関連する芸術、科学、技術の分野に関連する基礎科目を配置する。

- ・その後、音響設計の専門家として必要な、音に対する感性と音に関連する文化、環境、情報の各分野についての専門知識を修得、深化させ、さらにコースの専門科目やコースにまたがる横断的な科目を履修することを通して、総合的に課題を解決するために応用する能力を修得させる。

(2) カリキュラムを構成する科目群

[基幹教育]

- ①「基幹教育科目」
 - i) 基幹教育セミナー
 - ii) 課題協学科目
 - iii) 言語文化科目
 - iv) 文系ディシプリン科目
 - v) 理系ディシプリン科目
 - vi) サイバーセキュリティ科目
 - vii) 健康・スポーツ科目
 - viii) 総合科目
 - ix) 高年次基幹教育科目
 - x) その他

[専攻教育]

- ②デザインリテラシー科目
- ③コース基礎科目
- ④コース専門科目
- ⑤コース演習科目 (PBL)
- ⑥融合プロジェクト・プラットフォーム
- ⑦深化・展開科目
- ⑧卒業研究・設計

[基幹教育]

① 基幹教育科目

九州大学の学部学生の全てが履修する基幹教育科目は、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目及び高年次基幹教育科目で構成され、初年次に36単位以上を目安に修得し、2年次以降も専攻教育と連動しながら計48単位を修得させる。

i) 基幹教育セミナー

基幹教育セミナーは、生涯にわたる自立的な成長を支える〈学びの基幹〉を育むことを目標とする科目である。

ii) 課題協学科目

課題協学科目は、現代社会が抱える様々な課題や問題の中から授業テーマを設定し、他者と協働しながら自律的に学修を進めることのできる姿勢を身に付けることを目標とする科目である。

iii) 言語文化科目

言語文化科目は、外国語で目標の課題を達成することができる言語運用能力の修得を目標とする科目である。

iv) 文系ディシプリン科目

文系ディシプリン科目は、豊かな教養に裏付けられた深い専門性を伸ばすために必要な文系の基礎的な科目である。

v) 理系ディシプリン科目

理系ディシプリン科目は、教養・専門基礎・リメディアルの3つを意識した科目で構成し、知識を使える力を育てることを目標とする科目である。

vi) サイバーセキュリティ科目

サイバーセキュリティ科目は、IT 社会を生き抜くために必要となるサイバーセキュリティ力を向上させることを目的とする科目である。

vii) 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目は、身体運動やスポーツを媒介として、生活の基本となる健康・体力を高めることを目標とする科目である。

viii) 総合科目

総合科目は、幅広いテーマと多種多様な授業形態によって開講し、創造的・批判的な思考方法の涵養を目標とする科目である。

ix) 高年次基幹教育科目

高年次基幹教育科目は、2年次以上の学生を対象に、より多様で幅広い教養の深まりを促すことを目標とする科目である。

[専攻教育]

本学部の専攻教育は、基幹教育で修得する学問分野の基礎的な知識をはじめ、豊かな教養へとつながる知識、技能を基盤としつつ、学部専攻教育を実施するカリキュラムで構成し、基幹教育と連動しながら計80単位を修得させる。

② デザインリテラシー科目

芸術工学としての共通基盤を構築するため、全ての学生が、次の4つの科目群それぞれから1科目以上（必修科目を含む）履修し、コース毎の専門的能力にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを体系的に学ぶ科目である。

表 2 : デザインリテラシー科目の内容

4つの科目群の内容		開講科目
デザインリテラシー基礎	芸術工学がどのような価値を実現しているかを学び、デザイン応用力を支える基礎的なリテラシーを形成する	デザインリテラシー基礎
基礎造形	物理的な形を作り出すことにより、創造性を育む	基礎造形Ⅰ 基礎造形Ⅱ 基礎造形Ⅲ 基礎造形Ⅳ
人間とデザイン	人間とデザインの関わり方を多面的に学び、デザインが展開するフィールドを理解する	文化とデザイン 社会とデザイン 人間科学とデザイン 科学技術とデザイン
デザイン論	デザイン学の基盤となる概念、あるいは先端的な概念を学修し、デザイン学としての基礎知識や基礎概念を取得する	デザイン論Ⅰ デザイン論Ⅱ デザイン・ケーススタディⅠ デザイン・ケーススタディⅡ

特に基礎造形Ⅰ～Ⅳでは、インターネットの一般化に伴って生じたDIY (Do It Yourself) やDIWO (Do It With Others)、パーソナル・ファブリケーション、メーカームーブメントという新たなモノづくりに対する理解を踏まえた、造形を通じた体系的な創造性教育を実施する。工作工房を活用し、新たな知や技術だけを取り入れる又は伝統的な手法に固執するという新旧の断絶ではなく、両者を融合し、アナログからデジタルまでを滑らかに行き来する次世代のデザイン教育を実現する。

③ コース基礎科目

各コースの教育目的に合わせた基本的な知識の修得に必要な科目を提供する。

専門分野の基本となる分野を履修することで、より高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付けることを目的としており、各コースにおいて学生に履修を強く推奨する科目と位置づけている。

④ コース専門科目、⑤コース演習科目 (PBL)

各コースで育成する人材に必要な基礎的能力をはじめ、専門知識、想像力、実践的解決能力、技能等の修得に必要な科目を、コース専門科目及びコース演習科目 (PBL) で提供する。

また、コース演習科目 (PBL) では、各コースに関わる身近な問題や事例等を素材としながら、具体的な問題解決に向けて協働学習で取組み、実践的思考を鍛える科目である。

⑥ 融合プロジェクト・プラットフォーム

異なる専門分野を広く学ぶことを希望する学生が協働して、新たな価値の創出や課題解決に積極的に取り組めるように、複数の分野 (コース) の教員でグループを作り、数種類のプラットフォーム (課題) を提示する。各プラットフォームで設定するテーマは、その時のデザイン領域の先端性のある可変的なテーマとし、常に社会の趨勢に沿ったデザイン教育を実施する。授業は、2, 3, 4年次の夏

学期と秋学期に開講し、学年や所属するコースが異なる学生が一つの課題に協働で取り組む形式とし、学生はこれまでに身に付けた専門分野の知識・スキル・経験を活用する方法を学ぶ一方、別の専門分野に関する経験やスキルを得ることで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範な視点や発想方法、デザインスキルの修得や知識の融合を図ることが可能となる。

⑦ 深化・展開科目

全体的に必修科目数を減らし、学生が自身の興味・関心・問題意識に従って広くデザインを学び、様々な視点から自らのデザインを展開するために必要な知識・技能を身に付けさせることを狙いとする科目群として設ける。学生には12単位以上を修得させるが、環境設計コース、メディアデザインコース、音響設計コースの学生はそのうち4単位以上を、未来構想デザインコース及びインダストリアルデザインコースの学生はそのうち8単位以上を他コース科目の履修により修得することを条件とし、全単位を他コースの科目での修得とすることも可能とする。なお、未来構想デザインコースにおいては、その中で1つのコースから提供される科目を集中的に履修することで、具体的なデザイン対象に習熟することとする。

⑧ 卒業研究・設計

3年次終了の時点において、各コースで設定する卒業研究の着手条件を満たした学生は、4年次より必修の卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱを履修する。卒業研究は各コースで定めた方法により、特定のテーマについて研究し、卒業研究発表会や卒業研究展において、研究等の成果を発表させる。

(3) 本学部におけるカリキュラムの特色

I) 創造性を育む新しいデザイン教育

コース制の導入を生かして必修科目を減らし、前述の芸術工学の基幹をつくり、造形教育を強化したデザインリテラシー科目による教育や、異なる志向をもつ学生、異なる専門分野を学ぶ他コースの学生同士が協働して新たな価値創出や課題解決に取り組むコース演習科目（PBL）、融合プロジェクト・プラットフォームでの学びを通じて、拡大し流動化するデザイン領域に対応するものづくりを媒介とした創造性を育むことが新しいデザイン教育としての狙いであり、特色である。

II) 学生の流動性の担保

1) 4学期制を踏まえた時間割の編成

大学全体の4学期制の導入を踏まえ、各授業科目は、週1コマ、8週間、1単位付与のクォーター科目としての開講を基本とする。ただし、授業科目の内容によっては、15コマのセメスター科目や、諸外国のデザイン教育で行われている、1日、3日間、1週間等の期間で実施するワークショップ型の科目として開講する。

また、留学の機会や、他コース科目履修の機会を提供するため、必修の授業科目を開講しないクォーター（3年次夏学期）を設定し、柔軟に授業を履修、運用できる教育環境を整える。

2) 学科一括入試による入学者のコース選択

本学部では、2020（令和2）年4月より学生を入学時に学部全体で一括募集し、2年次から各コースに配属する学科一括入試（大括り入試）の枠を設ける。

学科一括入試により入学した学生は、1年次に芸術工学共通の基礎的なリテラシーを学びながら、

様々なデザイン分野の事例を集めたデザイン・ケーススタディ I を履修する。さらに自身の興味、関心、問題意識に従って、各コースが提供する専門分野の科目の履修が可能となるように科目配置を行うことで、学生のコース選択決定をサポートする。教員からの修学指導やサポートを受けつつ、2年次に5コースのいずれかを選択することとなるため、教員との面談により各コースの専門分野の内容等を把握した上で、より適性や関心に沿ったコース選択が可能となる体制を構築する。

3) 転コースによる学生の流動性の担保

学修を進めるうちに、軸足となる専門分野の変更を希望する学生に対しても対応できるよう、転コースの仕組みについても構築する。2年次の秋学期に、転コース希望について学生に照会し、希望した学生が転コース先の2年次学生が2年次終了時まで履修した科目の平均 GPA 以上の GPA である場合、3年次の春学期開始前に希望したコースへの所属変更を行う。なお、転コースする学生は転コース先の2年次までのコース必修科目をすべて履修するものとする。また、分野のミスマッチを起こさないように、転コース先で履修すべきことについての事前の修学指導と、転コース後のフォローアップを実施する。

4) 卒業研究の柔軟化

各コースで設定する一定の要件を満たす一部の学生については、自身の興味、関心、問題意識に従って、他コースでの卒業研究の実施や、卒業研究のテーマが専門分野の境界領域の場合は専門分野の異なる複数の教員から指導を受けられるようにする等、軸足となる専門性をしっかりと担保しつつ、デザイン領域の広がりや学生の自由な発想に柔軟に対応できる仕組みを導入する。

他コース研究室への受入れを希望する学生がいた場合、各研究室の教員が学生と十分協議を行った上で、最終的な受入れの判断を行う。転コースとは異なり、所属コースの変更は行わないため、学生は所属コースの教員と受入先の他コースの教員から指導を受ける複数指導体制の下、自身の興味、関心、問題意識に関係する分野を横断的に学ぶことが可能となる。

受入れ条件を毎年4月に1～3年次を含む全学年に公示し、他コースでの卒業研究実施に興味を持つ学生が早い段階で準備できるようにする。

例えば、受入れ条件としては以下のいずれかの条件を満たすことが考えられる。

- i) 受入れ先の教員が担当する授業科目の単位を修得している。
- ii) 受入れ先コースの授業を3科目程度履修している。
- iii) 卒業研究と関連するテーマの融合プロジェクト・プラットフォームを履修している。

Ⅲ) 国際的な教育活動

1) 国際プログラムの開設

全てのコースの学生を対象として、国際社会において主体的に活動できる姿勢を身に付けさせ、コミュニケーション能力を高めるための国際プログラムを設け、英語による講義・演習授業の実施や、英語による卒業研究発表等を実施する。また、国際プログラムを履修する学生は、在学中に国際プログラムの一環としての留学を行い、海外の大学で諸外国の新たなデザイン概念、デザイン実践を学ぶ。プログラムの詳細については後述の通り（10章）。

2) 環境設計グローバル・アーキテクト・プログラムの開設

本プログラムは、国際的な建築家資格を目指す学生向けに、環境設計コースの4年間と大学院芸術工学府の2年間を合わせた6年間の国際標準の建築設計教育を提供するものである。日本技術者

教育認定機構（JABEE）の建築系学士修士課程プログラムの認定を受けた上で、UNESCO-UIA が求める建築設計・計画系に特化された国際要求基準（UNESCO-UIA 建築教育憲章）に準拠した教育プログラムとして開設し、修了要件を満たした学生にはプログラム修了証を交付する。

学部教育においては、環境設計コースの提供科目により教育プログラムを実施する。学生には、入学後に本プログラム修了のための必要科目、単位数等についてガイダンスを行う。学生は環境設計コースを履修しながら、同時に本プログラムを履修していくこととなる。

大学院教育においても、既存提供科目を活用するプログラムとなるが、芸術工学研究院の部局内センターである「環境設計グローバル・ハブ」で培われた国際的な研究ネットワークを活用し、海外の大学と連携した国際ワークショップやスタジオを含む PBL（課題解決型）設計演習科目を教育の中心とし、それらを支える専門講義科目、デザインの幅を広げる展開科目、インターンシップ科目等でカリキュラムを構成する。

IV) その他カリキュラムの特色

企業、自治体及び非営利法人（NPO）等との連携教育

本学部ではこれまで数年にわたり、各学科の専攻教育科目において、企業、自治体及び非営利法人（NPO）等と連携した教育を行っている。企業等の担当者による、実際の現場でより必要とされる専門領域についての講義のほか、企業や社会が実際に抱える問題について、学生と企業等の担当者が共同で課題解決に取り組む授業を行っている。具体的には、企業等が資料や情報を提供し、学生がフィールド調査を実施する、共同ワークショップを行って企業等の担当者から学生のアイデアに対し助言や評価を行ったりする等である。これらの体験により、学生はより実践的な仕事の知識や技術、社会人としてのコミュニケーション能力や課題解決能力を身に付けることができる。また、学生ならではの視点による斬新な発想、アイデアが企業等に評価され、実際に一部の商品や活動に取り入れられた事例もある。

近年実施した取り組みの例としては、以下のようなものがあげられる。

i) 自治体や企業、NPO 法人と共同した、様々な社会問題解決の取り組み：

銀行、近隣自治体と連携したキャッシュレス時代のサービスデザイン、海外の大学や近隣自治体と連携した少子高齢化時代特有のサービスデザイン、障がい者の芸術表現活動の支援方法のデザインを試みる演習等。

ii) 企業と共同した「モノ・コト」のデザイン：

インテリアに関わる製品デザイン、気象や人体に関わる各種センサーから得られる情報の利活用、空気の質の可視化、エアラインにおける顧客満足度を高めるためのサービスデザインまで、広範囲にわたるデザイン演習。

iii) 自治体、地域と連携した取り組み：

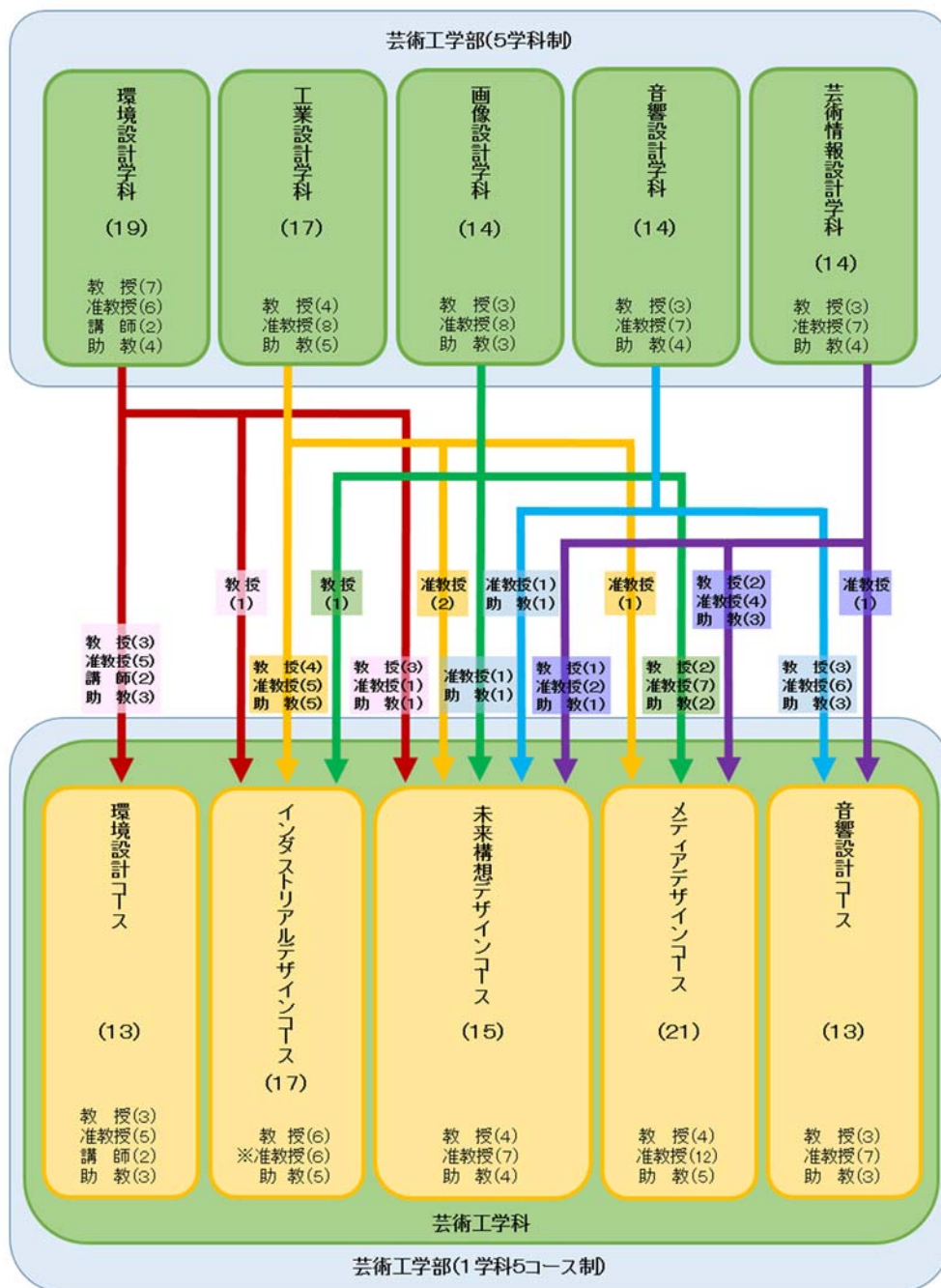
災害復興やその後の地域振興等、緊急度の高い内容から長いスパンで考えるべき政策提言までをデザインする演習。フィールドでの調査から提案まで、実践的な内容に取り組む。

学部改組後は、より体系的に企業・自治体連携を教育課程に取り込んでいく予定である。例えば、3年次の夏学期には必修科目を入れず、日程的に柔軟にデザイン教育を行える環境を整えているため、当該学期に開講する融合プロジェクト・プラットフォームにおいて、企業や自治体が抱える具体的な課題をテーマに取り上げ、企業・自治体関係者の協力を得て演習を実施する等を予定している。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織の編成の考え方

教員の組織編成においては、九州大学の学部・学府研究院制度を前提として、主に芸術工学研究院所属の教員が芸術工学部の教育を担当するという考え方にに基づき、研究院におけるそれぞれの専門分野における専門性と、これまでの教育実績を十分に考慮した上で、教員個々の適性や希望も尊重して編成した（図4）。



※インダストリアルデザインコースには現行の学部で学科に所属していない准教授(共通科目担当)1名を含む

図4 改組による教員組織の再編成について

なお、各コースに配置された教員は、所属コースの教育に係る企画運営及びコースに所属する学生の教育を主に行うが、担当以外のコースの教育についても必要に応じて担当し、学生に対する修学指導については学部教育に関わる全教員で臨む体制とする。

初年次から学生が学ぶこととなる基幹教育については、平成26年度以降、すべての研究院、附置研究所、学内共同教育研究センター、先導的研究センター等に所属する教員が、全学的に協力し一体となって実施する体制が既に構築されている。2年次以降に教育課程の中心となる専攻教育の主要な科目には、本学部の専任の教授及び准教授を中心に配置し、専任の講師および助教も協力して学部教育を実施する体制を構築している。

(2) 教員の年齢構成

本学部の開設年度（2020年4月1日）における専任教員は79名であり、うち教授20名、准教授37名（共通科目担当教員1名含む）、講師2名、助教20名となっている。完成年度（2023年4月1日）には専任教員は72名となり、うち教授が14名、准教授が36名、講師が2名、助教が20名となる。専任教員の年齢構成については、完成年度（2023年4月1日）時点で30歳代が7名、40歳代が20名、50歳代が32名、60歳代が13名となっており、教育研究水準の維持及び活性化に十分な年齢構成となっている。なお、完成年度までに7名の教員が定年により退職となる予定であるが、他の専任教員で十分に対応可能であるため、教育研究上の支障はない。

(3) 教員組織編成の特色

本学部の中心となる学問分野となる「芸術工学」は、芸術、科学技術、人間・人文科学だけにとどまらない、社会や自然にもまたがる幅広い分野を包括しているため、教員組織は様々な専門分野の教員から構成されている。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 本学部の教育方法の考え方

I) 教育方法の考え方と授業科目

本学部は、設立当初から実験・実習等の演習系科目を通して、自ら体験することすなわち、実際に触れてみることに、視ること、聴くこと、創ってみることを教育方法の方針として掲げており、教育課程の編成に当たっても、この考え方を継承拡大している。

再編後の教育課程においては、実験・実習科目やワークショップ形式の授業を多く取り入れたカリキュラムとなっている。最近、アクティブ・ラーナーという用語とともに、盛んに高等教育の世界で使われているPBL(課題解決型・プロジェクト型)教育科目については、50年前から既に取り組んできた実績があるため、本学部では、こうした最近の流れを受けた取組として授業を実施するのではなく、長年の実績と経験に基づいたPBL授業を、改組後の新学科においてもしっかりと引き継ぎ発展させる。

II) 主要な授業科目の実施方法と配当年次

- 1年次：全学共通の基幹教育を中心に履修し、多様な学問にふれることを通して、問題関心の裾野を広げ、後の成長のための土台を築き、本学部の学生に求められる能動的学修能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」で自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて、協働学習の基礎を身に付ける。理系ディシプリン科目では、「情報科学」、「自然科学総合実験」、「数理統計学」及び「デザイン史」を本学部の必修科目とし、設計やデザインのための基礎スキルを培う。
また、学部の専攻教育として、1年次前期にはそれぞれの分野が共有する要素であり、芸術工学の共通基盤となるデザインリテラシー科目を全ての学生が履修し、後期には各コースから提供される専門的な科目を履修する。
- 2年次：専攻教育科目を中心に履修し、課題解決を構想するために必要な基礎的な知識・技能を身に付け、課題を見つけるための学びを開始する。また、具体的な地域の実態やあるべき姿について、総合的かつ実践的に学ぶため、フィールドワークな等の学外実習や、実践的な設計プロジェクト演習を履修する。
- 3年次：専攻教育科目を中心に履修し、徐々に自分の取り組む課題を明確にしていき、自らの力で課題を設定して、課題の解決方法を模索する能力を培う。3年次の夏学期は必修科目を設定しない期間とし、国際プログラムの履修学生は海外留学の実施、それ以外の学生には融合プロジェクト・プラットフォームの履修を促す。専門領域を横断する融合プロジェクト・プラットフォームや、身近な事例等を素材とした課題解決学習であるコース演習科目(PBL)の学修を介して、高度な専門知識の融合を図り、新しい価値を創造できる実践的な能力を身に付ける。
- 4年次：卒業研究を実施することで、実践的な問題解決能力とともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

(2) 卒業要件

本学部の卒業要件は、基幹教育科目及び本学部の専攻教育として開講する科目の履修による128単位の修得であり、各区分で設ける必要単位数は次のとおりである。

表 3： 基幹教育科目（2年次以降を含む）48単位（科目区分ごとの最低修得単位数）

科目区分	コース	芸術工学部 芸術工学科				
		環境設計コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計コース
基幹教育セミナー		1単位				
課題協学科目		2.5単位				
言語文化科目		12単位				
文系ディシプリン科目		4単位				
理系ディシプリン科目		18単位				
サイバーセキュリティ科目		1単位				
健康・スポーツ科目		1単位				
総合科目		1単位				
高年次基幹教育科目		2単位				
その他		5.5単位 (言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・ スポーツ科目、総合科目、高年次基幹教育科目から修得)				

表 4： 専攻教育科目 80単位（科目区分ごとの最低修得単位数）

科目区分	コース	芸術工学部 芸術工学科				
		環境設計コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計コース
デザインリテラシー科目		8単位				
コース基礎科目		10単位	7単位	10単位	7単位	14単位
コース専門科目		30単位	21単位	30単位	25単位	22単位
コース演習科目 (PBL)		12単位	24単位	8単位	20単位	16単位
融合プロジェクト・ プラットフォーム				4単位		
深化・展開科目		12単位*)				
卒業研究・設計		8単位				

*) 4単位以上を他コースの専門科目（コース専門科目及びコース演習科目（PBL））からの修得とし、全て他コースの専門科目で修得することも可能。
但し、未来構想デザインコース及びインダストリアルデザインコースは8単位以上を他コースの専門科目から修得する。

(3) 履修科目の年間登録上限

卒業の要件として修得すべき単位数について、学生が各年度の1学期において履修科目として登録できる総単位数の上限を24単位とする。ただし、前年度において修得した単位の8割以上の成績がB（基準を超えて優秀）以上である者は、学部長に願い出て許可を得ることで、登録単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めるものとする。

7. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備状況

芸術工学部のある大橋キャンパス内には、芸術工学図書館、キャンパスライフ・健康支援センター（健康相談室、学生相談室）、外国人留学生・研究者サポートセンター、食堂・売店等の福利厚生施設が充実している。

また、大橋キャンパスの近くには、学生寄宿舍（井尻寮）が設けられている。

運動場については、大橋キャンパス内に設置されている多目的グラウンド、体育館、テニスコートを主に使用する。このほか大橋キャンパスには課外活動施設（サークル棟）が整備されている。

学生が休息するスペースとしては、課外活動施設（サークル棟）、食堂、建物によっては休憩スペース（リフレッシュルーム）が整備されている。

(2) 校舎等施設の整備状況

教室については、本学部の特色ある教育を展開できるよう、現在の3号館・4号館・5号館・7号館等を中心として、次のような形で整備されている。

① 講義室・演習室

3号館	3 2 1号室（ 5 4名規模）
	3 2 2号室（1 1 7名規模）
	3 2 3号室（ 3 0名規模）
4号館	4 1 1号室（ 6 1名規模）
5号館	5 1 1号室（2 1 0名規模）
	5 1 2号室（ 8 1名規模）
	5 2 1号室（ 8 8名規模）
	5 2 4号室（1 3 0名規模）
	5 2 5号室（1 4 7名規模）
	5 3 1号室（ 7 8名規模）
	5 3 2号室（ 5 4名規模）
	5 3 3号室（ 5 4名規模）
	共同製図室（1 1 1名規模）
7号館	ワークショップ室（3 6名規模）
	シアタールーム（1 6名規模）

② アクティブ・ラーニング・スペース

グループで議論しあう協働学習を支える設備として、大橋キャンパス内の学修支援施設（デザインコモン）2階に、可動式の椅子や机等を利用可能なアクティブ・ラーニング・スペース（5 0名規模・1室）が整備されている。

また、学生によるグループプロジェクトや研究・教育活動を支援するためのコワーキングスペースである「デザインステーション」を大橋キャンパス内の複数箇所に整備し、グループワークに適したデスク、チェア、可動式ホワイトボードを設置している。（2号館2階スペース、3号館1階スペース、3号館3階3 0 5号室、7号館1階スペース）

③実験・研究室

問題や課題の解決に向けた研究に取り組むための活動スペースとして、実験・研究室が整備されている。

また、教員の研究室についても、大橋キャンパスの既存施設の中で、教員団としてまとまりを形成できる位置に確保し、演習室を近接させて、教員と学生の日常的なコミュニケーションがスムーズに図られるよう整備されている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備

I) 図書資料の整備状況

九州大学附属図書館の全蔵書は、図書約420万冊、学術雑誌約83,300冊、アクセス可能な電子ブック約238,000タイトル、アクセス可能な電子ジャーナル約108,000タイトルを所蔵し、各種データベースサービスを提供している。データベースや電子ジャーナルは、学外からもアクセス可能となっている。そのうち、芸術工学図書館には、図書約188,000冊、学術雑誌約3,000冊が収蔵されている。長年にわたる計画的な図書資料の収集・整備により、芸術工学部の教育研究領域に関する図書・学術雑誌類は充実している状況にあり、現在も年間で図書が約1,700冊、学術雑誌約520冊を受け入れる等、更なる充実を図っている。

II) 図書館の整備状況

芸術工学図書館は、主に芸術工学系の学生・教職員へのサービスを行い、ビデオ室・ステレオ室等、芸術工学関係の多様な資料に応じた施設を備えている。

また、平成28年度より、1階にアクティブ・ラーニング・スペースを設置し、可動式の椅子と机、壁面ホワイトボード、大型ディスプレイ、可動式電源を利用できることとなった。このエリアでは学修のための対話やディスカッションが可能となっている。

8. 入学者選抜の概要

(1) 芸術工学部が求める学生

九州大学では、九州大学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

その中で芸術工学部では、本学部の理念である「技術の人間化」に基づき、技術を人間生活に適切に利用するための道筋を設計する「高次のデザイナー」の養成を目的とし、以下のような学生を求めている。改組後の本学部は、芸術工学科の1学科となるため、学科も同様である。

- ・芸術工学に関連する様々な専門知識を修得し、社会の課題を発見・提起できる力を修得するために必要な基礎学力、論理的な思考能力とともに、美しさ、心地よさ、文化的な深み等を感じ取れる感性を有する。
- ・広い視野に立って他者と協力しながら課題解決へ向かう力を修得するために必要な、豊かな人間性、創造性、挑戦する精神を有する。
- ・課題解決のためのプロセスを明確化し、実践する力を修得するために必要な、自ら問題を設定し、積極的に解決に向かう意欲を有する。
- ・自らの感性や専門的知識を有効に活用し、考えを効果的に表現・伝達する力を修得するために必要な、多様性に対する好奇心と寛容性、柔軟な思考力を有する。

これらに加えて、各コースにおいて次のような学生を求めている。

○ 環境設計コース

- ・多様化する環境に関する諸問題に対して、空間の広がりや、歴史性をふまえて、問題を解決するためにどのような提案をすべきか、自ら判断する強い意欲を有する。
- ・建築、都市、地域、ランドスケープ等に関する専門知識を修得するために必要な基礎学力を有する。
- ・環境を読み解く力、社会調査スキル、科学的思考力、表現能力、分析する力を修得するために必要な環境や事物を観察する能力、創造的な感性を有する。

○ インダストリアルデザインコース

- ・人間とは何かを考え、人間の生活や社会を支える「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」の創造に対して強い意欲を有する。
- ・人間の特性と論理的にデザインを創造する幅広い専門知識を修得するために必要な基礎学力を有する。
- ・社会的視点を持って物事を考え、実践する努力を惜しまない意欲を有する。

○ 未来構想デザインコース

- ・近い将来の我々の社会のありように関心を持ち、既成概念にとらわれることなく、新たなデザインの分野の開拓や表現活動への挑戦と創造への強い意欲を有する。

- ・よりよい社会を構想するために、芸術、技術、思想に関する知識と、自然や社会を数理科学的に捉える生命科学、情報科学に関する知識を修得するために必要な基礎学力を有している。
- ・社会的な課題に関心を持ち、論理的な思考力と実証的な志向性を有する。

○ メディアデザインコース

- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザインと芸術的表現に強い意欲を有する。
- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザインの知識、数理科学的知識、人間の心理や知的財産に関する知識、芸術と文化に関わる知識を修得するために必要な基礎学力を有する。
- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザイン、コンテンツ創成に関する基礎的な表現能力を有する。

○ 音響設計コース

- ・音に関連する芸術、科学、技術の幅広い分野に関心を持ち、専門的知識を自発的に修得する強い意欲を有する。
- ・音響設計の専門家として必要な音に対する感性と、音に関連する文化、環境、情報の各分野についての専門的な知識を修得するための基礎学力を有する。
- ・音響・音楽等に関する強い関心や有意義な経験を持ち、芸術的感性を有して個性豊かであるとともに、音響設計コースにおいて自主的に修学する意欲を有する。

(2) 入学者選抜の概要

九州大学では「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を踏まえ、九州大学基幹教育の理念に合致した、ものごとを多角的にみることのできる学生を選抜する「九州大学新入試 QUBE」を2021（令和3）年度までに段階的に実施することを目標としている。九州大学新入試 QUBEは「大学適応力重視型入試」「加速学習型入試（高大連携型推薦入試）」「国際経験・英語力重視型入試（国際型入試）」「記述学力重視型入試（バランス型）」の4類型で、実施される。

本学部においては、上記大学の方針に基づき、以下に述べる入試を実施する。

I) 一般入試（前期）（記述学力重視型入試）

1) コース別入試

本学部では、学生が自己の専門知識や技能を生かしつつ、他の分野を経験することで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範な専門知識や技能を修得することを目的とする融合教育を行うこととしている。高年次において融合教育を行うために、早い段階から学生に軸となる専門分野を選択させ、分野に関係する専門教育科目を履修させることにより、学生の知識や習熟度を高めておく必要がある。また、過去10年間においても、現行の学科は平均して3倍強の志願倍率を保持しており、学生は明確な目的意識を持って各学科を受験していることがうかがえる。これらの事実から、これまで実施されてきた専門分野（学科）別の入学試験制度を継承し、入学時に所属するコースを選択する「コース別入試」を2020（令和2）年度入試より実施する。

2) 学科一括入試

学生を入学時には一括募集し、入学後にコース選択させる大括り入試を導入する大学が全国的に増加しており、2019（令和元）年度入試からは宇都宮大学工学部、愛媛大学工学部、佐賀大学工学

部で大括り入試が導入される予定となっている。また、九州大学でもすでに文学部、農学部で同様の入試方法が実施されており、入学時から分野を選択せず、複数の分野をある程度学んだ後に分野選択を行う制度について、従前より潜在的な需要があったと考えられる。本学部においても受験生のニーズに応えるため、最初から学びたい分野を決めて受験するコース別入試と併せて、コースを特定せず一括で入試を行う「学科一括入試」を2020（令和2）年度入試より実施する。

II) AO入試（大学適応力重視型入試）

AO入試は、従来の教科・科目の筆記だけによる学力試験では測れない、学生の個性や能力、芸術工学に必要な感性等を総合的に評価する選抜試験としてこれまで実施しており、各コースで学生に求める個性、能力及び学ぶことへの意欲や目的意識を測るため、コース別にAO入試を実施する。

III) 国際型入試（国際経験・英語力重視型入試）

国際型入試では、現代の国際社会に対する強い関心と多様な経験を有し、世界を舞台にした活動に対する強い意欲を持ち、その意欲を実現するための高い語学力（特に英語で学び・考え・行動するための語学力）を備える学生を選抜する。九州大学では、「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」を毎年全学一括で実施しており、本学部においては2020（令和2）年度入試以降も引き続き、若干名の募集枠を設け、実施する。

IV) 推薦入試（高大連携型推薦入試）

推薦入試では、高等学校までの正課の学習に加えて、部活動や学校内外での社会活動や特別プログラム等において、高度な科学的探究活動や社会貢献活動等を行い、その成果を諸団体が企画・運営する研究会等で発表している等、自主的な研究活動、社会活動等のための高い資質と顕著な活動実績を有する学生について、学校長からの推薦を受けることができる。本学の共創学部で現在実施されており、本学部では2021（令和2）年度入試より、インダストリアルデザインコース及び未来構想デザインコースにおいて、知識・技能のみならず思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性を持つ多様な学生を獲得するため、推薦入試を実施する予定である。

(3) 募集人員及び選抜方法

現在は学科別に入試を実施しており、現行の5学科制での過去5年間（平成26年度から平成30年度）の志願倍率は、学部全体で約3.1倍から約3.7倍で推移し、定員充足率も1.02倍から1.07倍を保っている。

今回の改組では、履修上の区分として5コース（環境設計、インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）を設けるため、各コースのニーズ・受験動向の把握として、現在芸術工学部に在籍する学生に対してアンケート調査を実施した。

各コースの履修学生数を設定するにあたって、過去5年間の学科ごとの定員設定と志願状況や、前述のアンケート調査の結果に加え、専任教員の確保状況、各コースで開講する授業科目等を踏まえ、各コースの適切な履修人数を検討した。

特に、カリキュラムの面において、各コースを履修する学生が、コースに関わる身近な問題や事例等を素材としながら、具体的な問題解決に向けて取組み、実践的思考力を鍛える「コース演習科目(PBL)」や、異なる専門分野を学ぶことを希望する学生が、新たな価値の創出や課題解決に取り組む「融合プロジェクト・プラットフォーム科目」では、学生がチームを形成し、協働して問題解決等に取り組むこと

となる。そのため、各コースで開講される「コース演習科目（PBL）」等に応じて、7名×5チーム＝35名、9名×3チーム＝27名、9名×5＝45名といった形で、柔軟にチーム編成が可能な人数を考慮する必要があった。

加えて、「インダストリアルデザインコース」と「メディアデザインコース」は、母体となる改組前の旧学科において志願倍率が高く十分に入学希望学生を確保できていたこと、及び先に述べたアンケート調査において、同コースを希望する学生の割合が他コースと比較して高かったこと、また、「未来構想デザインコース」は、現代社会の複合的な課題と可能性に向き合うために、発想力・想像力を徹底して鍛える特色あるコースである点も考慮した。

先に述べた様々な点も考慮し、改組前の5学科において標準的な定員サイズであった35名をベースに、各コースで想定する履修人数を設定した。（表5、表6）。

I) 一般入試（前期）（記述学力重視型入試）

1) コース別入試

2020（令和2）年度入試においては、環境設計コース24名、インダストリアルデザインコース25名、未来構想デザインコース15名、メディアデザインコース21名、音響設計コース26名とする。なお、2021（令和3）年度入試以降は、インダストリアルデザインコース及び未来構想デザインコースで推薦入試を開始するため、コース別入試における募集人員をインダストリアルデザインコース20名、未来構想デザインコース10名に変更する予定である。

選抜方法として、総合的な基礎学力を測るための大学入試センター試験（5教科7科目）及び、芸術工学を学ぶために必要な基礎知識を身に付けているかを判定するための個別学力検査（数学、理科、外国語の3科目）を課す。

2) 学科一括入試

学科一括入試では、学生が適切なコース選択を行えるよう、何をすべきなのか、何を学びたいのかについて、十分に履修指導を行う必要がある。そのため、学生への支援を綿密に実施することが可能な人数を考慮し、学科一括入試による募集人員は学部全体で20名とした。

選抜方法として、総合的な基礎学力を測るための大学入試センター試験（5教科7科目）及び、芸術工学を学ぶために必要な基礎知識を身に付けているかを判定するための個別学力検査（数学、理科、外国語の3科目）を課す。

この枠で入学する学生に対しては、合格後（入学前）に、学科一括入試を選んだ理由、芸術工学部で行いたいことのイメージ、第1希望と第2希望のコース等の進路希望調査を行い、この調査をもとにして面談および希望に応じた適切な履修指導をきめ細かく行う。さらに、学期ごとの履修登録期間の前に、コースの希望調査と履修指導を継続して実施し、1年次の秋学期終了時には、第1希望先のコースを決定させる。

2年次進級時の各コースでの受け入れは、基本的に学生の希望を尊重するが、授業の内容等に応じた適正規模の人数の目安をあらかじめ明示しておき、希望人数に偏りが生じて目安を超えるような場合は、各学生の履修状況、成績や適性等を踏まえ、適切な進路指導を行う。

II) AO入試（大学適応力重視型入試）

九州大学では、「九州大学新入試 QUBE」の改革の一つとして従来の記述学力重視型試験以外の方法による入学者を定員の30%とすることを目指している。本学部においても、この全学の方針を踏まえ、2020（令和2）年度入試より、コース別入試の募集人員のうち50%程度（学部全体では30%

程度)をAO入試により選抜することとする。募集人員は、環境設計コース7名、インダストリアルデザインコース16名、未来構想デザインコース8名、メディアデザインコース20名、音響設計コース5名とする。

選抜方法は、各コースにおいて以下のとおりとする。

○ 環境設計コース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、環境や事物の特徴を観察し、創造できる感性を備えた意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

○ インダストリアルデザインコース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、様々な活動に積極的に参加し、有意義な体験を重ねてきた意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

○ 未来構想デザインコース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書・大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、国際的な志向性と多様性に対する関心、柔軟な思考力を持って様々な活動に積極的に参加する、意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

○ メディアデザインコース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、創作活動に高い関心を持ち、論理的な思考能力を持つ、個性豊かな学生を選抜する。

○ 音響設計コース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験、小論文及び実技を含む面接による総合評価を行うことで、十分な学力を備えた上で、音響・音楽に関する様々な活動等、有意義で実践的な経験を持つ意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

Ⅲ) 国際型入試(国際経験・英語力重視型入試)

九州大学では、大学一括で国際型入試を年3回(帰国子女入試を年1回、私費外国人留学生入試を年2回)実施しているが、出願対象となる学生の特性から受験者の数が限られている。過去5年間に於いて芸術工学部を志望した者はいない状況であるため、帰国子女及び私費外国人留学生を対象とする国際型入試の募集人員は、学部全体で若干名とする。

選抜方法は、大学入試センター試験を免除し、学力検査及び面接により選抜を行う。

Ⅳ) 推薦入試(高大連携型推薦入試)

2021(令和3)年度から実施する予定の推薦入試の募集人員は、インダストリアルデザインコース5名、未来構想デザインコース5名の計10名とした。

表5：2020（令和2）年度入試における募集人員数

試験種 コース		芸術工学部芸術工学科					
		環境設計 コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計 コース	計
入 試	一般入試	24	25	15	21	26	111
	A0入試	7	16	8	20	5	56
	小 計	31	41	23	41	31	167
学科一括入試 (一般入試)		20					20
国際型 入 試	帰国子女 入 試	若干名*					若干名*
	私費外国人留 学生入試	若干名*					若干名*
						合 計	187

*募集人員の内数に含まれます。

表6：2021（令和3）年度入試以降における募集人員数

試験種 コース		芸術工学部芸術工学科					
		環境設計 コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計 コース	計
入 試	一般入試	24	20	10	21	26	101
	A0入試	7	16	8	20	5	56
	推薦入試	—	5	5	—	—	10
	小 計	31	41	23	41	31	167
学科一括入試 (一般入試)		20					20
国際型 入 試	帰国子女 入 試	若干名*					若干名*
	私費外国人留 学生入試	若干名*					若干名*
						合 計	187

*募集人員の内数に含まれます。

9. 取得可能な資格

本学部において、取得可能な資格は次のとおりである。

表7：取得可能な資格

種別	資格名	取得できる資格	要件等
国家資格	1級建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、受験に必要な建築実務の経験年数が2年以上となる。
	2級建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、建築実務の経験がなくとも受験可能となる。
	木造建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、建築実務の経験がなくとも受験可能となる。
民間資格	インテリアプランナー	登録資格	インテリア・建築に関する科目の単位を修得して卒業後、インテリアプランナー試験に合格すれば、実務経験がなくとも、インテリアプランナー登録を受けることができる。

10. 海外留学等の具体的計画

(1) 国際プログラム

(理念)

全てのコースに所属する学生を対象として、国際社会において主体的に活動できる姿勢や態度とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的として、国際プログラム枠を設ける。本プログラムは、各コースで学ぶ専門的なデザインと自国のアイデンティティに軸足を置きながら、留学により日本にはないデザインのアプローチ、手法、発想を学び、学生自らのデザインの幅を広げるとともに、留学で学んだことを大学・学部にもたらし、他の学生のデザインの幅を広げる効果が期待できる。

詳細は以下に記述するが、希望する学生にとってのプログラムの特長としては、1) 修了証明書が発行されることで、就職や将来の海外留学に有利になる、2) 国際プログラム科目(4科目)を履修し、担当教員が開催する英語によるゼミに参加することで、コミュニケーション能力を身に付けるとともに、国際的に活動するうえで有用な自らの強みを発見できる、3) 1クォーターから1年間の留学を通して、海外のデザインの手法を修得できる、4) 海外の協定校に優先的に留学できる、5) 継続的に留学をしても、留年することなく学部課程を卒業できる制度設計がなされている、6) 留学にかかる手続きや奨学金取得に関する体系的なサポートやアドバイスを得られる、等が挙げられる。

(本プログラムの修了要件と修了証明書の発行)

英語のみの授業となる国際プログラム科目4科目の履修、留学、留学後の融合プロジェクト・プラットフォームの履修を必須とし、修了要件を満たす学生に対してプログラム修了が認定され、修了証が発行される。

(国際プログラム科目)

国際プログラムでは以下の4科目を英語で提供し(表8)、学生の国際的なデザイン活動の基盤を作ることを目指す。国際プログラムを履修する学生は、国際プログラム科目をすべて履修する。

表8：国際プログラム科目とその内容

Title	Content
Design Pitching Skills	The objective of this course is to develop students with the required English competencies to explain their ideas and pitch their ideas effectively and clearly in English. This course will consist of a series of projects where students will be coached in terms of presentation and communication skills as well as pitching skills.
Start-ups and Global Disruptors	The objective of this course is to provide students with the basic understand on the requirements and what it takes in building Start-ups as entrepreneurs. It provides students with the cycles encountered by start-up companies such as acquiring initial investment funds, the dead valley, acquisitions and IPOs etc.

Intellectual Property Rights : Global Perspective	The objective of this course is to provide students with the basic understand on Intellectual Property Rights in Japan and overseas.
Global Design Innovations	<p>The objective of this course is to provide students with various case studies of social design innovations through the context of overseas. Such examples may be based on Global Innovation Design in RCA etc.</p> <p>Through these case studies, students will be involved in design projects and provide proposals and prototypes in responds to some of the issues introduced through the course.</p>

(海外留学)

国際プログラムを履修する学生は、海外大学で修得したい内容や進路の希望によって留学先を決定し、3年次に1クォーターから1年間の海外留学を行う。現在、芸術工学部と学生交流協定を結び、実際に学生の交換留学の実績のある海外機関は表9のとおりである。各大学に同時に2名程度を限度として、一定の言語要件を満たすことを条件として、国際プログラムを履修する学生を優先的に派遣する。

表9：これまで交換留学の実績のある国と海外機関

国	大学
フランス	パリ・ラ・ヴィレット建築大学 ボルドー建築景観学院
オランダ	アムステルダム応用科学大学 HKU ユトレヒト芸術大学 NHL 応用科学大学
ドイツ	カールスルーエ造形大学 ダルムシュタット科学技術大学 ケルン応用科学大学
イタリア	ミラノ工科大学
フィンランド	アールト大学
トルコ	アナドル大学
アメリカ	カリフォルニア・ポリテクニク州立大学
台湾	国立台北科技大学 銘傳大学 国立成功大学
中国	北京大学 大連理工大学

韓国	KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) 東西大学
シンガポール	シンガポール国立大学 NTU (Nanyang Technological University)
インドネシア	ハサヌディン大学
バングラデシュ	バングラデシュ工科大学

(留学中の単位認定)

留学先の海外機関で、学生は学修計画に基づいて科目履修を行っていくが、特にデザインの概念、アプローチ、実践等に関する演習授業の修得を推奨し、日本とは違う価値観に基づくデザインに触れる機会を重視する。これらのデザイン専門科目は各コースで開設する国際デザイン科目（専門選択科目）の単位として認定する。

例えば、環境設計コースでは、国際環境デザインA I～IV（2単位）及びB I～IV（1単位）を各クォーター、合計8科目開設する。ほかの4コースについても、同様な科目（「国際メディアデザインA, B」等）を開設する。学生が海外の大学で履修したデザイン科目の内容に応じて、1クォーターにつきいずれかのコースの国際デザイン科目A, B、それぞれ1科目認定できるものとする。海外の大学のプロジェクト科目のうち本学部のプロジェクト科目に相当するものについては、融合プロジェクト・プラットフォーム（最大4単位）の単位として認定する。この他、海外の大学において修得した授業科目のうち、選択科目と教育内容の同等性が認められる科目については、読み替えて単位認定できる。国際デザイン科目も含めて、単位認定を希望する学生は当該科目の資料を提出し、申請する。

以上の制度により、留学した学生は国際デザイン科目単位を1クォーターにつき3単位、1年で12単位、融合プロジェクト・プラットフォームを最大で4単位、計16単位を上限として自由科目ではなく、卒業要件単位に算入できる。これに加えて、専門科目に選択科目として開設されている科目に読み替えられる科目により単位を修得した場合はさらに卒業要件単位に算入できるため、留学しても留年せずに卒業できる可能性が高まる。

(サポート体制)

国際プログラムには、外国人教員を含む担当教員を置き、継続的なガイダンス、ゼミを実施するとともに、芸術工学部事務部の留学および国際連携担当とともに、各種サポート、サービスを提供する。さらに、九州大学は海外オフィスを複数設置しており、これらの海外オフィスからのアドバイスを得ながら、留学の支援を行う。

(制度的な立て付け)

本プログラムは、1学年におよそ10名程度が履修する見込みである。本学部では、既に毎年10名弱の学生が海外の大学や教育機関に留学している実績（図5参照）があり、国際プログラム担当教員による学生へのサポート体制のキャパシティから、募集人員は年に各コースから2～3名、学部全体で10名程度とした。

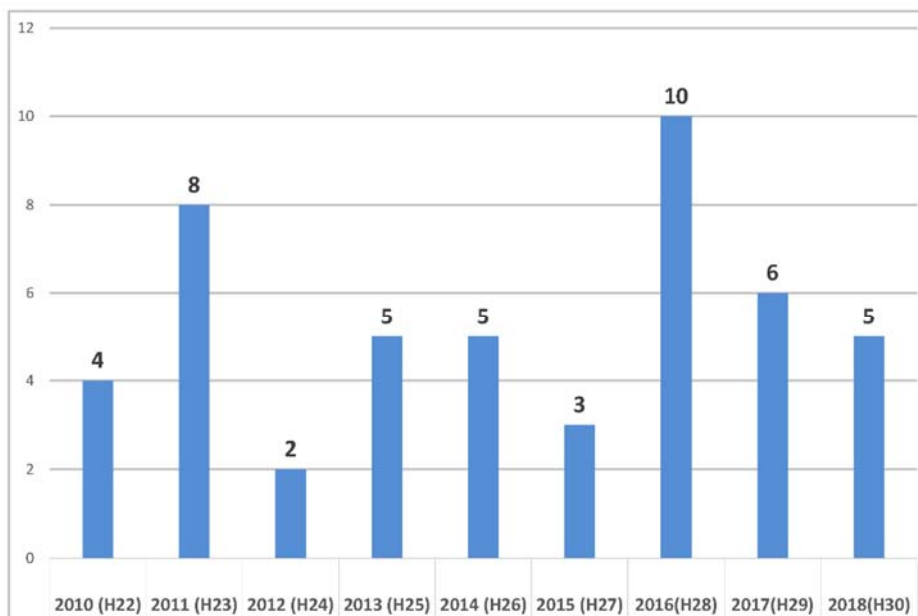


図5 芸術工学部における学生の海外留学者数

具体的な制度運用としては（表10参照）、2年次の春学期に国際プログラムについての説明会を行い、履修を希望する学生を募集する。学生への面談等を行った後、2年次の夏学期に国際プログラム履修者を決定、3年次の春学期までに国際プログラム科目（英語科目）の修得、外国人教員による学生への語学指導、留学先の大学等との調整を行い、3年次に1クォーターから1年間まで、各自で設定する期間の海外留学を実施する。帰国後は、4年次の夏学期に、融合プロジェクト・プラットフォームへの参加を必修として、学生が留学時に修得した海外のデザインに関する知見、経験、アプローチ等を共有し、他の学生・教員に対してフィードバックする。卒業時には、国際プログラムの修了証明書を学生に交付する。

表10： 国際プログラムの実施

時期	活動内容
2年次・春	プログラム説明会・継続的な随時相談 春クォーター終了時までに履修希望調査
2年次・夏	プログラムの履修者決定
2年次・夏以降	国際プログラム科目4科目（Design pitching skills; Start-ups and global disruptions, Intellectual property; Global design innovation）を履修
3年次	留学
4年次	融合プロジェクト・プラットフォーム
卒業時	修了証書

1 1. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

(1) 概要

芸術工学部の学生は、1年次は伊都キャンパス（福岡市西区元岡744）で、2年次以降は大橋キャンパス（福岡市南区塩原4-9-1）で授業を受けることになっており、1年次及び2年次以降のいずれの履修も、それぞれのキャンパスで完結する。したがって、学生が同一学期の中で両キャンパスを往復しながら履修しなければならないような時間割にはならない。

伊都キャンパスでは、全学部の1年次を対象に開講される「基幹教育」の授業と、専攻教育の一部の授業（「デザインリテラシー科目」「コース基礎科目」「コース演習科目」の一部で週に1コマ程度）を履修する。

基幹教育は、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目などで構成され、新たな知や技能を創出し、未知の問題を解決していく上での幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学び、生涯にわたって自律的に学び続けるアクティブ・ラーナーの育成を目指し、学びの成長を支持する幹を作る体系的なカリキュラムとして機能する。

2年次以降は、大橋キャンパスで芸術工学部の専攻教育科目を中心に、芸術工学としての共通基盤を構築するため、全ての学生がコース毎の専門的能力にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを体系的に学ぶ「デザインリテラシー科目」をはじめ、各コースの教育目的に合わせた基本的な知識を学ぶ「コース基礎科目」、各コースで育成する人材に必要な基礎的能力をはじめ、専門知識、想像力、実践的解決能力、技能等を身に付けるコース専門科目及びコース演習科目（PBL）等を履修する。

なお、1年次の科目で再履修が必要なものがある場合は、当該科目のみを伊都キャンパスで履修せざるを得ないが、両キャンパス間は比較的交通の便もよいことから、履修登録の工夫である程度は対応可能と考えている。また、そもそもそのような事態を極力避けるため、履修指導を徹底する。

(2) 専任教員の配置

伊都キャンパスで開講する全学部の1年次を対象とする基幹教育は、全学出勤体制により全学部共通の授業として開講され、担当教員のほとんどは伊都キャンパスに配置されている。

また、伊都キャンパスで開講する芸術工学部の1年次を対象とする一部の専攻教育科目は、原則として、芸術工学部の専任教員が担当するが、週に1コマ程度であり、また、教員の移動時間等も考慮した時間割を組んでいることから、教員の移動等に関しても問題はない。

なお、伊都キャンパスでは、主に基幹教育の運営母体である基幹教育院の教員と、学務部基幹教育課が1年次の学修面をサポートする体制を整えている。芸術工学部の専攻教育科目が開講される曜日には、専任教員が伊都キャンパスで授業を行うため、当該専任教員が芸術工学部の1年次に履修指導を行うことができる。

(3) 施設設備

伊都キャンパスでは、全学部の1年次を対象とした授業を行っている。教室や基礎的な実験授業を行う実験室、体育館等の設備は十分に整っている。

1 2. 管理運営

(1) 学部ガバナンス

九州大学は、大学全体で世界的研究・教育拠点（グローバル・ハブ・キャンパス）の形成を目標に、アクティブ・ラーナーを育成するために、基幹教育を基盤に、学部専攻教育から大学院教育に至るまでの体系的を持ったカリキュラムの構築や、教育研究の理念、社会的課題への対応と提言、諸活動の不断の自己点検評価、大学や部局の IR（Institutional Research）情報等に基づき、構成員、部局、大学本部が一体となって、対話に基づく調和のとれた自律的改革に取り組んでいる。

芸術工学部は、このような大学全体のグローバル・ハブ・キャンパスを形成していくための取組に加え、基幹教育等で他学部の学生に対するデザイン的感性を育てる教育を実施し、特色のある学生の育成にも貢献しており、総長が任命する学部長がイニシアチブを十分に発揮できる学部ガバナンスを実現し、九州大学のミッションを踏まえた学部としてのミッションを、迅速かつ効果的に学部運営に反映できる管理運営体制の構築、運営に努めている。

また、教授会が学部長候補者を推薦することができる仕組みを設けているが、大学運営上、重要な職であることから、役員会において候補者から部局の運営方針等についてのヒアリングを行い、役員会の議を経て、総長が任命することとなっている。

(2) 教授会及び代議員会

教授会の審議事項は、人事、予算、組織の運営に関わる事項等とし、その他を代議員会に委任している。教授会は、専任の教授及び准教授で構成し、原則4月、7月、10月、1月に開催する。

代議員会の審議事項は、教授会から委任された事項、その他部局の管理運営に関する必要な事項としている。代議員会は、研究院長、副研究院長、部門長、学科長、コース・専攻長等で構成し、8月を除き原則毎月1回定例で開催する。

また、必要に応じて全教員で構成する拡大教授会を開催し、審議を伴わない部局の運営に関する重要事項の情報共有を図っている。

(3) 副学部長及び常設委員会

学部長がイニシアチブを十分に発揮できる体制を構築し、学部ガバナンスを円滑に行うため、学部長を補佐・支援する学部長指名の副学部長を3名置く。副学部長は、危機管理の観点から、学部長の補佐の役割に加え、学部長に事故がある場合の職務の代理や学部長が欠けた場合に職務を代行することができる仕組みとなっている。また、学部長、副学部長が一体となった部局運営体制を構築するため、副学部長は、学部長の推薦に基づき、総長が任命する。

学部の恒常的な業務を円滑に処理するため、常設委員会として、学務専門委員会、研究・評価専門委員会、施設等専門委員会を置く。

(4) 教学マネジメント

本学部で養成する人材像を踏まえた、体系的な教育課程の編成、組織的な教育の実施、厳格な成績評価等、教学マネジメント体制を実現するため、学部長（学府長）、学部長（学府長）から指名された副学部長（副学府長）、芸術工学部の学科目を担当する教員（コースごとに各1人）、芸術工学府の

講座を担当する教員のうち博士後期課程の研究指導資格を有する教員（専攻、コースごとに各1人）によって、学務専門委員会を組織する。

（5）人事給与システム

九州大学では、魅力ある年俸制給与体系とメリハリある業績評価体制の一体的構築により、組織の活性化及び多様な人材を確保することを目的に、平成26年10月1日から教員の年俸制を導入し、今後も年俸制の導入促進に取り組むとともに、本学独自の取組である「大学改革活性化制度」を活用した多様な人事を促進し、教員の流動性の向上と教育研究の活性化を図っている。

13. 自己点検・評価

(1) 全学の自己点検・評価

全学的な自己点検・評価について、九州大学学則第2条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表すること、及び「自己点検・評価及び第三者評価等多様な評価の結果を本学の目標・計画に反映させ、不断の改革に努める」ことを定め、学則第33条で大学評価に関する重要事項を審議する組織として、大学評価委員会を置くことを定めている。

大学評価委員会は、①本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の評価、②国立大学法人評価、③認証評価、④教員の教育・研究等活動の評価、⑤各部署の評価活動の総括、⑥大学評価に係る報告書の作成及び公表、⑦教員活動進捗・報告システム(Q-RADeRS)の運用等に関することを任務とし、総長を委員長とし、理事、副学長、各部署の長、事務局長で構成している。

全教員を対象とする教員活動評価も実施しており、教員活動評価では、①教員自身の教育研究活動の把握と改善向上と、②部局の将来構想における諸施策への活用を目的に、全学での基本的枠組みを設定し、部局の特性に配慮した実施体制や実施方法を定め、部局ごとに実施している。

また、教育・研究活動の継続的な改善を行っていくためには、改善に役立つための評価活動の質の向上を進めると同時に、効率的・効果的な評価体制の構築も必要であるため、九州大学では、多様かつ大量の必要データを処理・管理する情報処理システムの開発・運用を行っている。①大学経営や将来計画に関する基礎資料を収集、②自己点検・評価及び第三者評価への基礎資料、③教員が教員活動評価のために毎年度提出する報告書への活用、④国際交流や社会貢献推進のための情報公開への活用、⑤学内外からの教育研究活動に関する調査への対応の5つを目的に掲げ運用している「大学評価情報システム」をはじめ、中期目標・計画の達成を念頭に置きながら、年度計画の自己点検・評価や根拠資料の収集・保管、さらには次年度計画の立案までの一連の業務をサポートする「中期目標・中期計画進捗管理システム」等を運用し、全学的な評価活動の質の向上と、効率的・効果的な評価体制の構築を図っている。

さらに、平成28年4月には、学内の様々なデータを一元的に収集、管理し、組織としての管理・運営機能の強化を図ることを目的に、これまで本学における点検・評価活動に対する支援や、学内外への情報の提供等の業務を担っていた大学評価情報室を、インスティテューショナル・リサーチ(IR)室として発展的に改組し、現状把握や改善事項への対応を迅速に行える体制の強化を図っている。

九州大学では、国立大学法人評価、大学機関別認証評価等の評価において、上記の組織体制のもと点検・評価を行うとともに、評価結果の分析を行い、課題や改善点を整理した上で学内に対応を促す等、評価を適切に改善につなげる取組を推進している。

(2) 芸術工学部の自己点検・評価

芸術工学部では、中期目標期間における全学的な方針である「自己点検・評価体制に関する基本方針」と、「年度計画の自己点検・評価に係る実施要領」に基づく本学部内の自己点検・評価を行う組織として、常設委員会として研究・評価専門委員会を設置している。

当該委員会を中心に、大学の中期目標・中期計画を踏まえた上で、教育面においても研究面においても、グローバル化の推進に関する目標計画を多く立てており、将来構想として目指す世界的デザイン教育研究拠点化構想で掲げる、教育の国際化、科学技術イノベーション人材育成、イノベーション

創出の推進に向けた取り組みを含んだ中期目標・中期計画を策定するとともに、学生の受入れに関する事項、教育内容及び方法に関する事項、学修成果に関する事項について、点検・評価を行っている。

14. 情報の公表

(1) 大学としての情報の公表

九州大学では、インターネット上に大学のホームページを開設し、大学としての基本方針である「教育憲章」や「学術憲章」をはじめ、中期目標・中期計画等今後の大学の取組に関する情報を発信するとともに、カリキュラム、カリキュラムマップ、シラバス、授業科目のナンバリング、定員、学生数、教員数や学内規則等、大学の基本情報を公開しており、具体的な公表項目の内容と、公開しているホームページのアドレスは以下のとおりである。

- ①大学の教育研究上の目的に関すること
- ②教育研究上の基本組織に関すること
- ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- ⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

上記①～⑨ <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education/>

⑩その他

- a. 中期目標・中期計画、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等
<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/hyoka-home/index.html>
- b. 学内規則
<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/information/rule/rulebook/>
- c. 学部・学府等の設置関係の書類
<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/establish/>

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 全学的な取組

九州大学では、教育データに基づく教育改革のPDCAサイクルを確立させ、各学部等との連携により、全学的な教育改革を推進し、教育の国際的な通用性を高めることを目的とする全学組織として「教育改革推進本部」を設置している。同本部では、全学的なFD活動を実施するとともに、各部局と連携して、各部局のFD活動の支援を恒常的に行っている。

全学的なFD活動では、全学的な教育課題等に関する内容を中心に、部局のFD活動では、部局ごとの特性に応じた教育課題を取り上げて実施しており、FDを企画する際には、教職員を対象としたアンケートや、学生を対象とした授業評価アンケートの結果を活用している。

全学的なFD活動として、新採用となった教員等を対象に本学の将来の展望等について理解を深め、教育者・研究者としての資質と大学の構成員としての自覚を高める初任教員研修をはじめ、学習支援システム講習会、メンタルヘルス講習会、電子教材開発・著作権講習会、バリアフリー講習会等、教育活動の全般にわたるFD活動を実施している。これらの活動を通じて全学的な教育課題等に関する啓発や、課題の共有が図られ、カリキュラム、シラバス、教育手法、成績評価方法等の改善につながっている。

また、FD活動以外にも、全学的な職務関連研修を実施するほか、大学職員に必要な知識・技能を修得させ、必要な能力及び資質を向上させるために、以下の取組を実施している。

- ・コンプライアンスを確保するため、本学の体制・取組、非違行為の概要等を学び、コンプライアンスの重要性の認識と理解を深める「職員コンプライアンス研修」
- ・研究費不正を防止するための「研究費の運営・管理に係るコンプライアンス教育」(eラーニング)
- ・近年の不正競争防止法の諸改正等を受け、秘密情報の漏えい等を事前に防止し、適正な秘密管理を図る「大学における営業秘密管理eラーニング研修」
- ・国の方針や大学への要請等について理解を深め、職員個人の資質向上はもとより、組織として業務を円滑に遂行するための職員間における連帯意識の醸成を図る「学務事務研修」
- ・ビジネスライティングの基本的なルールと相手や状況に合わせた表現方法を学修し、留学生及び外国人研究者への対応能力及び海外の大学等とのEメールや文書による調整能力を涵養する「職員英語ビジネスライティング研修」等

(2) 芸術工学部の取組

芸術工学部では、全学的なFD活動を踏まえ、学務専門委員会が学部内のFDに関する企画・実施を担当している。

学務専門委員会は、年度毎にテーマを定め教育関連のFD企画を立案している。近年は、「グローバル化と英語による教育力」、「ルーブリックの作成」、「成績不振学生への指導」、「英語で授業を行う際の注意点」、「デザイン教育の質保証」、「教育支援システムの活用」をテーマとしてFDを実施しており、改組後も引き続き教育の質の向上及び学生支援の充実に資する企画を実施する。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

九州大学では、学生が「学び」を主体とした学生生活を送るための修学・生活支援、進路・就職支援を全学的な立場から統括・支援する組織として学務部にキャリア・奨学支援課を設置し、修学支援、進路・就職支援、正課外活動支援、経済支援を柱とした取組を実施し、教育と支援のシームレスな関係構築に取り組んでいる。

具体的な就職支援企画としては、主体的に進路を選択する能力の育成や、就業意識の形成を目的に、学部の低年次から「キャリアガイダンス」と、「業界・企業研究セミナー」を実施しているほか、3年次には「就活キックオフ&インターンシップガイダンス」、「インターンシップ企業合同セミナー」、「インターンシップ事前講習」、「インターンシップ対策講座」、「ビジネスマナー講座」、「内定者との座談会」等に加え、自己分析・自己PR講座、業界研究・志望動機講座、SPI対策講座、面接マナー講座、集団面接対策講座、個別面接対策講座、グループディスカッション講座等の就職支援に関する講座で構成する「就活対策講座（ES・面接対策）」を実施している。最終学年では、面接対策セミナーのほか、学内合同企業説明会（就職フェア）や、学内個別企業説明会等を実施している。

日本での就職を希望する外国人留学生に対しては、就職支援企画として「外国人留学生のための就職活動講座（全10回）」や、外国人留学生向けの「ビジネス日本語講座」、「ビジネスマナー講座」、「ビジネスコミュニケーション講座」、「内定者セミナー」、「企業研究セミナー」の他、「留学生のためのJOB FAIR」等を実施している。

さらに、キャリア・奨学支援課とキャンパスライフ健康支援センターとが合同で、障害のある学生向けの支援企画「就活サキドリ講座」、「インターンシップ」及び「キャリアガイダンス」を実施している。

また、就職後、あるいは大学院進学後に求められる実践的な英語能力を在学中に身に付けさせることを目的に、6週間のTOEIC対策プログラムを実施している。

具体的な就職支援制度としては、就職情報室を3か所に設置し、就職支援に関するイベントの情報提供をはじめ、就職活動に役立つ書籍の配架や、求人情報の提供などを行うほか、各キャンパスに就職相談室を設け、進路・就職アドバイザー6名を配置し、学生の就職に関する相談に対応している。また、学生は就職活動中に、九州大学東京オフィス・大阪オフィス・博多オフィスのパソコンやネット回線、ラウンジを利用することが可能である。

その他の取組として、就職活動を行う学生を対象とする「就活手帳」や、「九大生の就活体験記」の作成・配布、志望業界・企業のOB・OG訪問支援、求人情報Webシステムでの会社概要や求人情報の公開、九州大学の進路・就職コーディネーターが企業を訪問し、採用に関する情報をまとめた企業訪問情報シートの公開を行っている。

これらの就職支援に関する企画等は、九州大学のWebサイトや九州大学学生支援サイトにまとめて掲載し、学生が必要な情報に容易にアクセスできるようにしている。

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協同学科目 [2.5]
 課題協同学科目 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 ドイツ語I [2]、ドイツ語II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 地理学入門 [2]、法学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微分積分学 [1.5]、線形代数 [1.5]
 基幹物理学I A [1.5]
 基幹物理学I B [1.5]
 地球科学 [1]、プログラミング演習 [1]
 空間表現実習I [2]、デザイン思考 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 ユニバーサルデザイン研究 [1]
 その他 [1.5]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディI [1]

コース基礎科目 [2]

- 環境設計基礎I [1]
 環境設計基礎II [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年次後半からは、環境設計のための基礎的な手法や建築・環境の基礎概念を修得する。

1年次：40.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 サイバー空間デザイン [2]
 その他 [4]
 空間表現実習II [2]、デザインと観察 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形I [1] 基礎造形III [1]
 基礎造形II [1] 基礎造形IV [1]

コース基礎科目 [8]

- 空間デザイン実習 [2] 空間情報分析実習I [1]
 環境設計プロジェクトA [2] 空間情報分析実習II [1]
 環境設計プロジェクトB [2]

コース専門科目 [16]

- 構造理論I [1] 建築デザイン計画論 [2]
 構造理論II [1] 環境構法論 [2]
 環境材料論I [1] 都市環境設計論 [2]
 環境材料論II [1] 環境保全論 [2]
 環境調整システム論 [2] 緑地環境設計論 [2]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・具体的な地域の実態やあるべき姿について総合的かつ実践的に学ぶため、フィールドワーク等の学外実習や、実践的な設計プロジェクト演習を中心に履修し、環境設計、システムやデザインに関する知識や実践的能力を修得する。

2年次：39.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- 社会とデザイン [1] 科学技術とデザイン [1]

コース専門科目 [14]

- 構法設計論 [2] 環境テクノロジー実習A [1]
 建築空間設計論 [2] 環境テクノロジー実習B [1]
 環境情報論I [1] 近代建築史 [1]
 環境情報論II [1] 日本建築史 [2]
 設備計画論 [2] 歴史環境実習 [1]

コース演習科目(PBL) [4]

- 環境設計プロジェクトC [2]
 環境設計プロジェクトD [2]

深化・展開科目 [8]

- 環境設計コース専門科目 [4]
 環境社会デザイン論 [1]
 物質文化論 [1]
 環境倫理学 [1]
 アプローチメント論 [1]

環境設計コース演習科目(PBL) [4]

- 環境設計プロジェクトF [2]
 環境設計プロジェクトH [2]

融合プロジェクト・プラットフォーム・A [4]

・環境保全に関する講義や演習を通して、環境保全に関する専門的知識や調査能力、企画立案能力を養っていく。
 ・専門領域を横断したプロジェクトの学習を介して、高度な専門知識を融合し新しい価値を創造できる実践的な能力を身につける。
 ・自己の専門分野に関連する講義や演習を、中心に履修することで、専門分野に関するより高度な知識や理解力を身に付ける。

3年次：32単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 10単位
 コース専門科目 30単位
 コース演習科目(PBL) 12単位
 融合プロジェクトプラットフォーム 12単位
 深化・展開科目 12単位
 (他コース科目から4単位以上修得)
 卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究I [4]
 卒業研究II [4]

コース演習科目(PBL) [4]

- 環境総合プロジェクトA [2]
 環境総合プロジェクトB [2]

深化・展開科目 [4]

- インターナショナルデザイン演習科目(PBL) [4]
 フィールド調査論・演習 [4]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。特に具体的に表現・設計する能力を取得する。
 ・他の専門分野の演習科目を履修し、これまで身につけた専門分野に関する知識やスキルを横断的に発展させていく。

4年次：16単位

卒業後の進路イメージ「環境コンサルタント」

資料1

2

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協同学科 [2.5]
 課題協同学科 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 ドイツ語 I [2], ドイツ語 II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 社会学入門 [2], 芸術学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [12.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微積分学 [1.5], 線形代数 [1.5]
 基幹物理学 I A [1.5], 基幹物理学 I B [1.5]
 空間表現実習 I [2], プログラミング演習 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 企業から見たサイバーセキュリティ [1]
 その他 [3.5]
 バリアフリー支援入門 [1]
 ユニバーサルデザイン研究 [1]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

- インダストリアルデザイン基礎 I [1]
 インダストリアルデザイン基礎 II [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・感性、工学、科学などの複数の考え方に基づいて体系化したカリキュラムにより、社会実装のためのデザインの理論・方法論を身につける。

1 年次 : 40.5 単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [5.5]
 数理統計学 [1.5], デザイン史 [2]
 空間表現実習 II [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 デザインと観察 [2]
 その他 [2]
 サイバー空間デザイン [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I [1] 人間科学とデザイン [1]
 基礎造形 II [1] 科学技術とデザイン [1]

コース基礎科目 [5]

- プロダクトデザイン概論 [1]
 ライフスケープデザイン概論 [1]
 サービスデザイン概論 [1]
 人間工学概論 [2]

コース演習科目(PBL) [12]

- プロダクトデザイン実践論・演習 I [2]
 プロダクトデザイン実践論・演習 II [2]
 ライフスケープデザイン論・演習 I [2]
 ライフスケープデザイン論・演習 II [2]
 人間工学演習 I [4]

コース専門科目 [7]

- プロダクトデザイン実践論 [1] 環境生理学 [1]
 ライフスケープデザイン実践論 [1] 感性科学 [1]
 サービスデザイン実践論 [1] 行動生理学 [1]
 データ解析 [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・幅広い理論と実践の専門基礎となるクリエイティブデザインと人間工学を核に、講義と演習を相互に学び、深い理解と知識・技術を修得する。

2 年次 : 39.5 単位

デザインリテラシー科目 [2]

- デザイン論 I [1]
 デザイン・ケーススタディ II [1]

深化・展開科目 [8]

- 未来構想デザインコース専門科目 [4]
 先端芸術表現論 [1]
 デザイン哲学 [1]
 デザイン美学 [1]
 未来デザイン方法論 [1]
 先行デザインコース演習科目(PBL) [4]
 クリエイティブ発想演習 [2]
 クリエイティブプロトタイプ演習 [2]

コース演習科目(PBL) [12]

- ビジネスデザイン論・演習 I [2]
 ビジネスデザイン論・演習 II [2]
 人間工学演習 II [4]
 人間工学プロダクト演習 [4]

コース専門科目 [14]

- イノベーションデザイン論・演習 I [2]
 イノベーションデザイン論・演習 II [2]
 ライフスケープデザイン実践論・演習 I [2]
 ライフスケープデザイン実践論・演習 II [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 I [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 II [2]
 クリエイティブデザイン演習 [2]

・演習科目を中心としたカリキュラムを履修し、専門的知識と実践的な課題解決能力を修得する。
 ・深化・展開科目では、自コースの科目を履修することで専門的知識、課題解決能力を深めるとともに、他コースの科目を履修し、異なる専門分野の知識、観点や技術を修得する。

3 年次 : 36 単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 7単位
 コース専門科目 21単位
 コース演習科目(PBL) } 24単位
 融合プロジェクトプラットフォーム }
 深化・展開科目 12単位
 (他コース科目から8単位以上修得)
 卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [4]

- 環境設計コース演習科目(PBL) [4]
 環境総合プロジェクトA [2]
 環境総合プロジェクトB [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。特に実践的な課題解決能力、デザイン開発能力を修得する。
 ・演習科目を履修し、専門的知識と実践的な課題解決能力を修得する。

4 年次 : 12 単位

卒業後の進路イメージ
 「エンジニア・プランナー・リサーチャーなどを含む広義のクリエイター」

履修モデル(未来構想デザインコース)

従来の形や色をのみをデザインの対象とするだけでなく、商品デザインから、事業創出、研究開発、ブランディングまでを総合的にデザインする高度デザイン人材

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協学科目 [2.5]
 課題協学科目 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 中国語 I [2]、中国語 II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 法学入門 [2]、経済学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微分積分学・同演習 A [1.5]
 微分積分学・同演習 B [1.5]
 線形代数学・同演習 A [1.5]
 線形代数学・同演習 B [1.5]
 基幹物理学 I A [1.5]、基幹物理学 I B [1.5]
 プログラミング演習 [1]
 デザイン思考 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 現代企業分析 [1]
 その他 [1.5]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザインケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

- 未来構想デザイン概論 [1]
 社会と多様性 [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年次後半から、専門分野の基礎を学ぶことより高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付ける。

1年次：40.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 デザインと観察 [2]
 その他 [4]
 サイバー空間デザイン [2]
 音楽・音響論 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I [1] 科学技術とデザイン [1]
 基礎造形 II [1] 社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [8]

- 視覚芸術基礎 [1] クリティカルシンキング [1]
 コンセプト論 [1] プロトタイプ基礎 [1]
 デザインスケッチ [1] 情報科学 I [1]
 環境と持続可能性 [1] 生命科学入門 I [1]

コース専門科目 [9]

- 芸術表現論 [1]
 芸術文化論 [1]
 デザイン哲学 [1]
 デザイン美学 [1]
 未来デザイン方法論 [1]
 物質文化論 [1]
 環境社会デザイン論 [1]
 質的社会調査法 [1]
 情報科学 II [1]

共通課題 PBL 演習 A [4]

コース演習科目(PBL) プラットフォーム演習 A [4]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・専門分野の基礎的な知識・理解を基に、専門性の高い科目を履修し、より高度な知識やスキルを修得する。
 ・共通課題 PBL 演習(コース演習科目(PBL))により、共通のテーマへの取り組み方、デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に修得する。

2年次：40.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- デザイン論 I [1]
 デザイン論 II [1]

コース専門科目 [21]

- デザイン編集論・演習 [1] アプリケーション [1]
 デザイン材料論・演習 [1] ウェブサービスデザイン [2]
 デザイン要素論・演習 [1] データ解析 [1]
 デザイン設計論・演習 [1] プロトタイプ設計 [1]
 デザイン実装論・演習 [1] 情報科学 III [1]
 先端芸術表現論 [1] データマイニング I [1]
 グローバル化と伝統的社会 [1] データマイニング II [1]
 価値と政策 [1] 先端情報生命科学 I [1]
 芸術コミュニケーション論 [1] 先端情報生命科学 II [1]
 アプローチメント論 [1] 生命科学入門 II [1]

深化・展開科目 [4]

- インダストリアルデザイン演習科目(PBL) [4]
 ビジネスデザイン論・演習 I [2]
 ビジネスデザイン論・演習 II [2]

融合プロジェクト・プラットフォームコース融合プロジェクト A [4]

・専門性の高い科目を中心に履修し、より高度な知識やスキルを修得する。
 ・融合プロジェクト・プラットフォームを通して知識やスキルを応用し、実践力を付けることで、将来のあり得る社会を構想する能力を修得する。
 ・深化・展開科目では、他の専門分野のうち、一つの分野の科目を集中的に履修し、具体的なデザイン対象に習熟する。

3年次：31単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 10単位
 コース専門科目 30単位
 コース演習科目(PBL) 8単位
 融合プロジェクト・プラットフォーム 4単位
 深化・展開科目 12単位
 (他コース科目から8単位以上修得)
 卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [8]

- インダストリアルデザインコース専門科目 [8]
 イノベーションデザイン論・演習 I [2]
 イノベーションデザイン論・演習 II [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 I [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 II [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身に付ける。
 ・深化・展開科目では、引き続き他の専門分野のうち、一つの分野の科目を集中的に履修し、具体的なデザイン対象への習熟を深めていく。

4年次：16単位

卒業後の進路イメージ「デザイナー・起業家(企業デザイン部など)」

履修モデル(メディアデザインコース)

従来の形や色のみをデザインの対象とするだけでなく、商品デザインから、事業創出、研究開発、ブランディングまでを総合的にデザインする高度デザイン人材

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
基幹教育セミナー [1]
課題協同学科目 [2.5]
課題協同学科目 [2.5]
言語文化科目 [10]
第一外国語 [6]
学術英語A・リセプション [1]
学術英語A・プロダクション [1]
学術英語B・インテグレート [2]
学術英語A・CALL [1]
学術英語B・CALL [1]
第二外国語 [4]
フランス語 I [2]、フランス語 II [2]
文系ディシプリン科目 [4]
芸術学入門 [2]、社会学入門 [2]
理系ディシプリン科目 [14.5]
情報科学 [1.5]
自然科学総合実験(基礎) [1]
自然科学総合実験(発展) [1]
微積分学・同演習 A [1.5]
微積分学・同演習 B [1.5]
線形代数学・同演習 A [1.5]
線形代数学・同演習 B [1.5]
基幹物理学 I A [1.5]、基幹物理学 I A 演習 [1]
基幹物理学 I B [1.5]、基幹物理学 I B 演習 [1]
サイバーセキュリティ科目 [1]
サイバーセキュリティ基礎論 [1]
健康・スポーツ科目 [1]
健康・スポーツ科学演習 [1]
総合科目 [1]
外国語プレゼンテーション [1]
その他 [1.5]
基礎生物学概要 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
デザイン・ケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

- メディアデザイン概論 I [1]
メディアデザイン概論 II [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
・1年後半から、専門分野の基礎を学ぶことより高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付ける。

1年次：40.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
第一外国語 [2]
専門英語 [2]
理系ディシプリン科目 [3.5]
数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
高年次基幹教育科目 [2]
サイバー空間デザイン [2]
その他 [4]
デザインと観察 [2]、音楽・音響論 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I [1] 文化とデザイン [1]
基礎造形 II [1] 社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [5]

- メディアデザイン概論 III [1]
メディア表現基礎 [2]
メディアプロダクション [2]

コース専門科目 [11]

- グラフィックデザイン [1] マークデザイン [2]
情報デザイン [2] メディア情報処理 [2]
インタラクションデザイン [2] 色彩学 [2]

コース演習科目(PBL) [8]

- 造形表現演習 [2] コンテンツデザイン演習 I [2]
コミュニケーションデザイン演習 I [2]
メディアインフォメーション演習 I [2]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
・メディアとコミュニケーションのデザインに必要なスキル、数理的知識、人間の心理に関わる知識、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる知識などを広く修得する。
・芸術表現やプログラミング言語、コミュニケーションに関わる基礎的な技能・方法を体系的に修得する。

2年次：39.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- デザイン論 I [1] デザイン論 II [1]

コース専門科目 [14]

- 映像表現 [2] コンピュータビジョン [2]
アニメーション表現 [2] 心理学的思考法 [2]
数理造形 [2] フィジカルコンピュータとIoT [1]
バーチャルリアリティ [2] インタラクション(学部) I [1]

コース演習科目(PBL) [12]

- メディアデザイン総合プロジェクト I [2]
メディアデザイン総合プロジェクト II [2]
コンテンツデザイン演習 II [2]
コミュニケーションデザイン演習 II [2]
メディアインフォメーション演習 II [2]
数理造形と表現演習 [2]

深化・展開科目 [8]

- メディアデザインコース専門科目 [4]
演劇文化論 [2]
知的財産法 [2]

- メディアデザインコース演習科目(PBL) [4]
比較演劇・メディア文化演習 [2]
知的財産マネジメント演習 [2]

・メディアデザインに関する専門的な科目を履修し、様々な表現手法とそれを実現するための知識やスキルを習得する。
・コース演習科目(PBL)や深化・展開科目によるメディアデザインに関する実践的なプロジェクトの学習を介して、問題解決のためのプロセスを明確にし、企画実践する構想力、他者と共同する共創力、効果的に表現し伝達する表現能力を修得する。

3年次：36単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
デザインリテラシー科目 8単位
コース基礎科目 7単位
コース専門科目 25単位
コース演習科目(PBL) 20単位
融合プロジェクトプラットフォーム }
深化・展開科目 12単位
(他コース科目から4単位以上修得)
卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究 I [4]
卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [4]

- 未来構想デザインコース専門科目 [2]
デザイン設計論・演習 [1]
デザイン実装論・演習 [1]

- インダストリアルデザインコース専門科目 [2]
クリエイティブデザイン演習 [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。
・他の専門分野の専門科目、演習科目を履修し、具体的な制作や表現の方法、設計・実装していく能力を修得する。

4年次：12単位

卒業後の進路イメージ「メディアアーティストのクリエイター」

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協同学科 [2.5]
 課題協同学科 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレイト [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 ドイツ語 I [2]、ドイツ語 II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 文学・言語学入門 [2]、心理学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微積分学・同演習 A [1.5]
 微積分学・同演習 B [1.5]
 線形代数学・同演習 A [1.5]
 線形代数学・同演習 B [1.5]
 基幹物理学 I A [1.5]、基幹物理学 I A 演習 [1]
 基幹物理学 I B [1.5]、基幹物理学 I B 演習 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 アクセンビリティ基礎 [1]
 その他 [1.5]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディ I [1]

コース演習科目(PBL) [1]

- 聴能形成 I [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年次後半からは、音についての基礎的な訓練を始めることで、音に対する感性を高め、音響特性の違いを聞き分ける能力、音を明確にイメージできる能力を修得する。

1年次：39.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 音楽・音響論 [2]
 その他 [4]
 サイバー空間デザイン [2]
 デザインと観察 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I、II、III、IV [各1]

コース基礎科目 [14]

- | | |
|-----------|---------------|
| 聴覚生理学 [2] | 音響理論演習 I [2] |
| 聴覚心理学 [2] | 音響理論演習 II [2] |
| 音文化論 [2] | 音響信号処理 [2] |
| | デジタル信号処理 [2] |

コース演習科目(PBL) [6]

- | | |
|--------------|----------------|
| 聴能形成 II [1] | 応用音楽表現演習 I [1] |
| 音楽理論表現演習 [2] | 環境音響構成 [2] |

コース専門科目 [4]

- 電気工学 [2] 電子工学 [2]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・音文化、音響環境、音響情報に関する必修の基礎科目を集中的に履修し、音響設計の専門家として必要な基礎知識を身につける。

2年次：39.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- 人間科学とデザイン [1] 科学技術とデザイン [1]

コース演習科目(PBL) [9]

- | | |
|------------|-------------|
| 電気実験 [2] | 音響実験 I [2] |
| 音響生成演習 [2] | 音響実験 II [3] |

コース専門科目 [18]

- | | |
|----------------|---------------|
| 主観評価法 [2] | 音響マイエ工学 [2] |
| 情報理論 [2] | 音響マイエ工学演習 [2] |
| データ解析 [1] | 音響機器論 [2] |
| データマイニング I [1] | 楽器音響学 [2] |
| 音楽学 [2] | 室内音響学 [2] |

深化・展開科目 [8]

- 音響設計コース専門科目 [4]
 比較音楽理論 [2]、応用音響理論 [2]

- 音響設計コース演習科目(PBL) [4]
 音響プログラミング演習 [2]、收音音響構成 [2]

・各分野の専門科目、分野にまたがる横断的な科目群を履修する。音響実験 I・II により、専門知識を課題解決に応用する能力、総合的に課題を解決する能力、他者との協調性を身につける。
 ・音響設計・機器に関する科目を中心に履修し、音響設計の専門家として必要な専門知識を修得していく。

3年次：37単位

【卒業要件 128単位】

- | | |
|-------------------|------|
| 基幹教育科目 | 48単位 |
| デザインリテラシー科目 | 8単位 |
| コース基礎科目 | 14単位 |
| コース専門科目 | 22単位 |
| コース演習科目(PBL) | 16単位 |
| 融合プロジェクトプラットフォーム | |
| 深化・展開科目 | 12単位 |
| (他コース科目から4単位以上修得) | |
| 卒業研究・設計 | 8単位 |

- 卒業研究・設計 [8]
 卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [4]

- マイエデザインコース専門科目 [2]
 知的財産法 [2]

- マイエデザインコース演習科目(PBL) [2]
 知的財産マネジメント演習 [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。
 ・知識や能力の展開を図るため、他の専門分野の専門科目、演習科目を履修し、芸術工学に関わりのある知的財産権に関する知識を修得する。

4年次：12単位

卒業後の進路イメージ「楽器・音響機器メーカー関係の研究開発職」

履修モデル(国際プログラム)
※未来構想デザインコース在学生のモデル

国際的・社会的な課題を解決するため、デザインの力を活用してそれらの要因やニーズ、解決方法を多方面の視野から俯瞰的に探り、具体的な方向性を提案・検証する創造的プロセスを行うことができるグローバル人材

基幹教育 [37]

基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]

課題協同学科目 [2.5]
 課題協同学科目 [2.5]

言語文化科目 [10]
第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]

第二外国語 [4]
 中国語 I [2]、中国語 II [2]

文系ディシプリン科目 [4]
 地理学入門 [2]、政治学入門 [2]

理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微分積分学・同演習A [1.5]
 微分積分学・同演習B [1.5]
 線形代数学・同演習A [1.5]
 線形代数学・同演習B [1.5]
 基幹物理学 I A [1.5]、基幹物理学 I A 演習 [1]
 基幹物理学 I B [1.5]、基幹物理学 I B 演習 [1]

サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]

健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]

総合科目 [1]
 外国語プレゼンテーション [1]

その他 [2]
 社会連携活動論：ボランティア [1]
 社会連携活動論：インターンシップ [1]

デザインリテラシー科目 [2]

デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

未来構想デザイン概論 [1]
 社会と多様性 [1]

1年次：41単位

基幹教育 [11]

言語文化科目 [2]
第一外国語 [2]
 専門英語 [2]

理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]

高年次基幹教育科目 [2]
 ボランティア活動 I、II [各1]

その他 [3.5]
 グローバル社会を生きる I [1]、「留学」考 [1]
 集団生物学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [4]

基礎造形 I [1]、人間科学とデザイン [1]
 基礎造形 II [1]、社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [8]

視覚芸術基礎 [1]、クリエイティブシンキング [1]
 コンセプト論 [1]、プロダクシング基礎 [1]
 デザインスケッチ [1]、情報科学 I [1]
 環境と持続可能性 [1]、生命科学入門 I [1]

コース専門科目 [6]

西洋美術史 [1]、未来デザイン方法論 [1]
 デザイン哲学 [1]、データ解析 [1]
 デザイン美学 [1]、情報科学 II [1]

コース専門科目 [4]

Design Pitching Skills [1]
 Start-ups and Global Disruptors [1]
 Intellectual Property Rights: Global Perspective [1]
 Global Design Innovations [1]

国際プログラム科目履修

【留学サポート】
 ネイティブ教員の語学指導、
 留学先の調整、ビザ手続

2年次：37単位

コース専門科目 [14]

芸術文化論 [1]、価値と政策 [1]
 芸術環境論 [1]、表象文化論 [1]
 デザイン設計論・演習 [1]、芸術コミュニケーション論 [1]
 デザイン実装論・演習 [1]、教育における多様性 [1]
 環境倫理学 [1]、ファッション [1]
 物質文化論 [1]、情報科学 III [1]

ハイクォリティデザイン論・演習 [1]
 フィジカルコンピューティングとIoT [1]

デザインリテラシー科目 [2]

デザイン論 I [1]、デザイン・ケーススタディ II [1]

海外留学(夏・秋学期)

コース専門科目 [6]

- ・国際未来構想デザインA I [1]
- ・国際未来構想デザインA II [1]
- ・国際未来構想デザインB I [2]
- ・国際未来構想デザインB II [2]

3年次：26単位

卒業要件 128単位

基幹教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 10単位
 コース専門科目 30単位
 コース演習科目(PBL) 8単位
 融合プロジェクト・プラットフォーム 4単位
 深化・展開科目 (他コース科目から8単位以上修得) 12単位
 卒業研究・設計 8単位

深化・展開科目 [12]

インダストリアルデザインコース演習科目(PBL) [8]
 ライフスケープデザイン論・演習 I [2]
 ライフスケープデザイン論・演習 II [2]
 人間工学プロジェクト演習 [4]

インダストリアルデザインコース専門科目 [4]
 ソーシャルデザイン論・演習 I [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 II [2]

卒業研究・設計 [8]
 卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

融合プロジェクト・プラットフォーム・コース融合プロジェクトA [4]

「融合プロジェクト・プラットフォーム」にて、留学時に修得した海外のデザインに関する知見、経験、アプローチなどを発表する。

修了証の交付

4年次：24単位

卒業後の進路イメージ「行政官、国際機関職員」

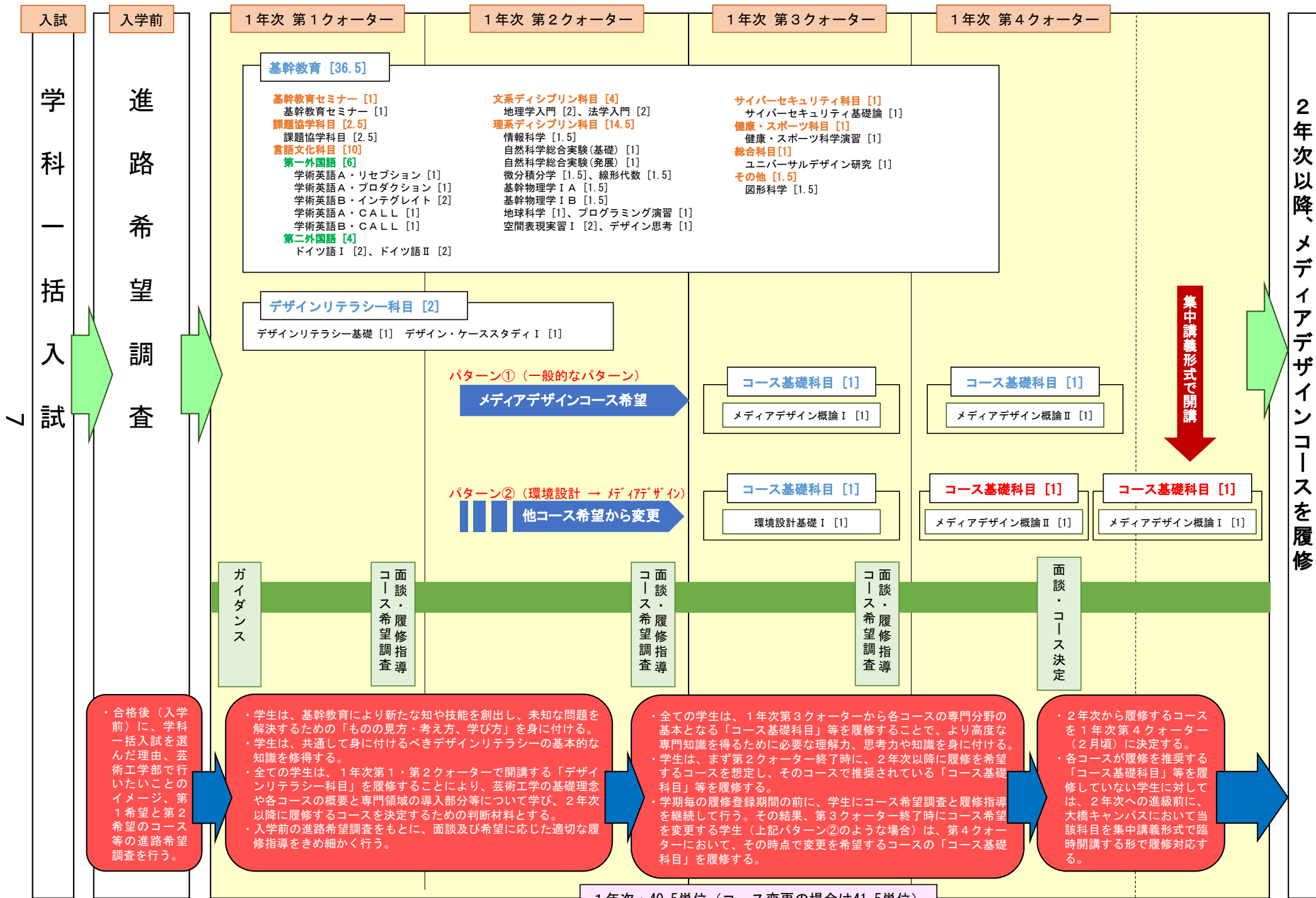
海外の大学において修得した授業科目のうち、選択科目と教育内容の同等性が認められる科目については、単位認定を行う。

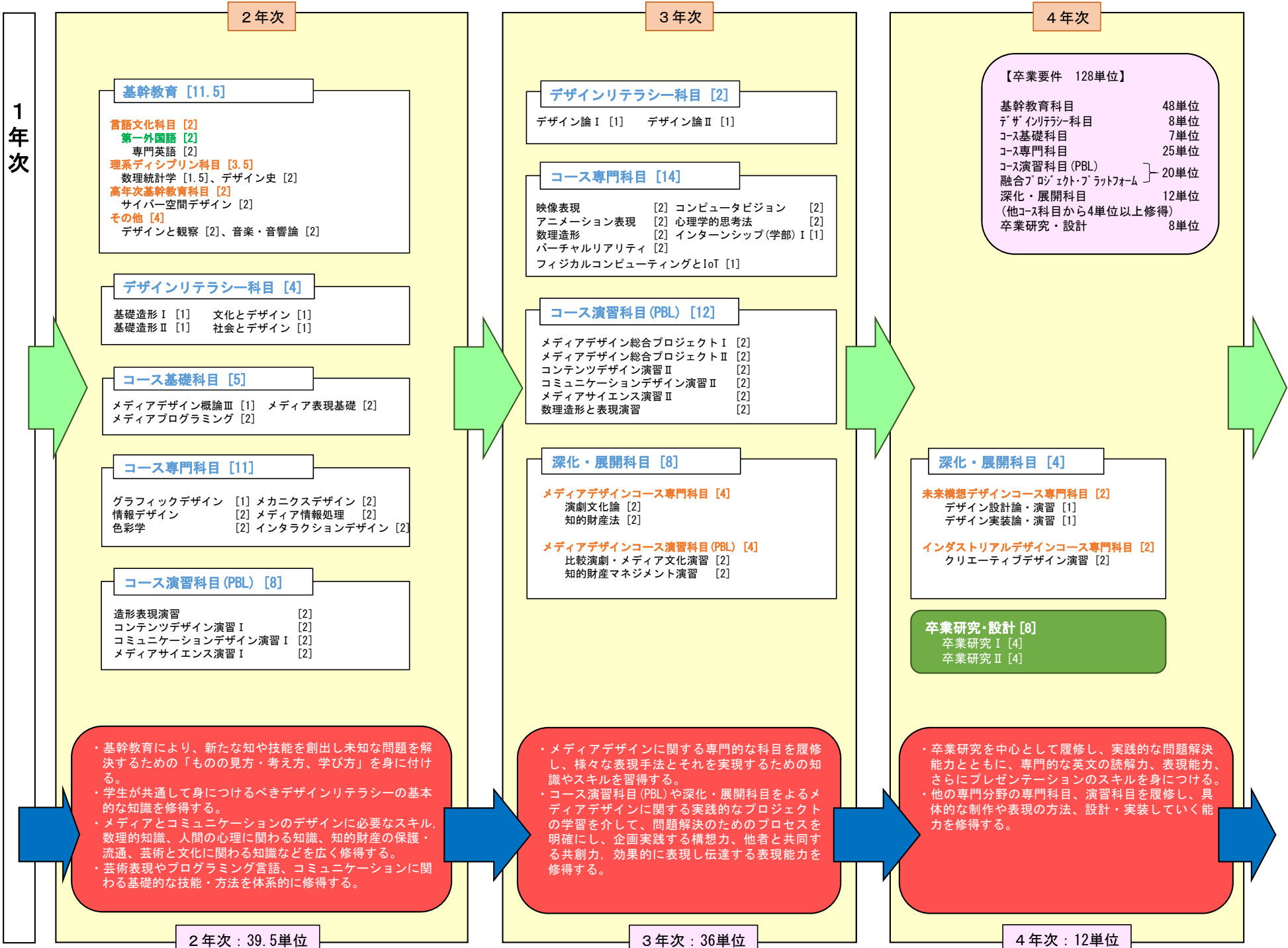
・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年次後半から、専門分野の基礎を学ぶことより高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付ける。

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・専門分野の基礎的な知識・理解を基に専門性の高い科目を履修し、より高度な知識やスキルを修得する。
 ・国際プログラム科目の履修や語学指導で、留学に必要な語学能力を修得し、かつ留学先機関との調整等、留学の準備を進めていく。

・共通課題PBL演習により、共通のテーマへの取り組み方、デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に取得する。
 ・夏・秋学期に海外留学を行う。留学中は学修計画に基づいて、日本とは異なる価値観に基づくデザインに触れる機会を重視し、演習授業を履修し、その知識や発想を身に付ける。
 ・春学期・冬学期の留学前後は、専門科目を履修して自己の専門性を高めることで、海外で得た知識と比較し、思考を深めていく。

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。
 ・コース融合プロジェクトAでは、海外のデザインに関する知見、経験、アプローチ等、他の学生・教員に対してフィードバックすると共に、自己の理解を深める。
 ・深化・展開科目では、他の専門分野のうち、一つの分野の科目を集中的に履修し、具体的なデザイン対象に習熟する。





基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
- 第一外国語 [2]
- 専門英語 [2]
- 理系ディシプリン科目 [3.5]
- 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
- 高年次基幹教育科目 [2]
- サイバー空間デザイン [2]
- その他 [4]
- デザインと観察 [2]、音楽・音響論 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I [1] 文化とデザイン [1]
- 基礎造形 II [1] 社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [5]

- メディアデザイン概論Ⅲ [1] メディア表現基礎 [2]
- メディアプログラミング [2]

コース専門科目 [11]

- グラフィックデザイン [1] メカニクスデザイン [2]
- 情報デザイン [2] メディア情報処理 [2]
- 色彩学 [2] インタラクションデザイン [2]

コース演習科目(PBL) [8]

- 造形表現演習 [2]
- コンテンツデザイン演習 I [2]
- コミュニケーションデザイン演習 I [2]
- メディアサイエンス演習 I [2]

- ・基幹教育により、新たな知や技能を創出し未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
- ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
- ・メディアとコミュニケーションのデザインに必要なスキル、数理的知識、人間の心理に関わる知識、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる知識などを広く修得する。
- ・芸術表現やプログラミング言語、コミュニケーションに関わる基礎的な技能・方法を体系的に修得する。

デザインリテラシー科目 [2]

- デザイン論 I [1] デザイン論 II [1]

コース専門科目 [14]

- 映像表現 [2] コンピュータビジョン [2]
- アニメーション表現 [2] 心理学的思考法 [2]
- 数理造形 [2] インターンシップ(学部) I [1]
- バーチャルリアリティ [2]
- フィジカルコンピューティングとIoT [1]

コース演習科目(PBL) [12]

- メディアデザイン総合プロジェクト I [2]
- メディアデザイン総合プロジェクト II [2]
- コンテンツデザイン演習 II [2]
- コミュニケーションデザイン演習 II [2]
- メディアサイエンス演習 II [2]
- 数理造形と表現演習 [2]

深化・展開科目 [8]

- メディアデザインコース専門科目 [4]**
- 演劇文化論 [2]
- 知的財産法 [2]
- メディアデザインコース演習科目(PBL) [4]**
- 比較演劇・メディア文化演習 [2]
- 知的財産マネジメント演習 [2]

- ・メディアデザインに関する専門的な科目を履修し、様々な表現手法とそれを実現するための知識やスキルを習得する。
- ・コース演習科目(PBL)や深化・展開科目によるメディアデザインに関する実践的なプロジェクトの学習を介して、問題解決のためのプロセスを明確にし、企画実践する構想力、他者と共同する共創力、効果的に表現し伝達する表現能力を修得する。

深化・展開科目 [4]

- 未来構想デザインコース専門科目 [2]**
- デザイン設計論・演習 [1]
- デザイン実装論・演習 [1]
- インダストリアルデザインコース専門科目 [2]**
- クリエイティブデザイン演習 [2]

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究 I [4]
- 卒業研究 II [4]

- ・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身に付ける。
- ・他の専門分野の専門科目、演習科目を履修し、具体的な制作や表現の方法、設計・実装していく能力を修得する。

国立大学法人九州大学教員の定年に関する規程

平成16年度九大就規第12号
施行：平成16年4月1日
最終改正：平成27年3月30日
(平成26年度九大就規第13号)

第1条 この規程は、国立大学法人九州大学就業通則（平成16年度九大就規第1号）第15条第1項の規定に基づき、国立大学法人九州大学に勤務する教員の定年について定めるものとする。

第2条 教員の定年は、65歳とする。

2 定年による退職の日は、定年に達した日以後における最初の3月31日とする。

第3条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者の定年は、70歳とする。

- (1) 文化勲章又はノーベル賞を授与された者
- (2) 総長が前号に掲げる賞に相当すると認める賞を授与された者

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、生年月日が次表の左欄に掲げる年月日に該当する教員の定年は、同表右欄に掲げる年齢とする。

生年月日	定年年齢
昭和16年4月2日～昭和22年4月1日	63歳
昭和22年4月2日～昭和24年4月1日	64歳

附 則（平成26年度九大就規第13号）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

基幹教育の目的と目標

1 基幹教育の目的と目標

(目的)

九州大学の教育は、日本の様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献することを目的としています。このために、基幹教育は、専攻教育と協働して、生涯にわたって学び続けることを幹に持つ、行動力を備えた人材である**アクティブ・ラーナー**へと成長していく力を培うことを目的としています。

(目標)

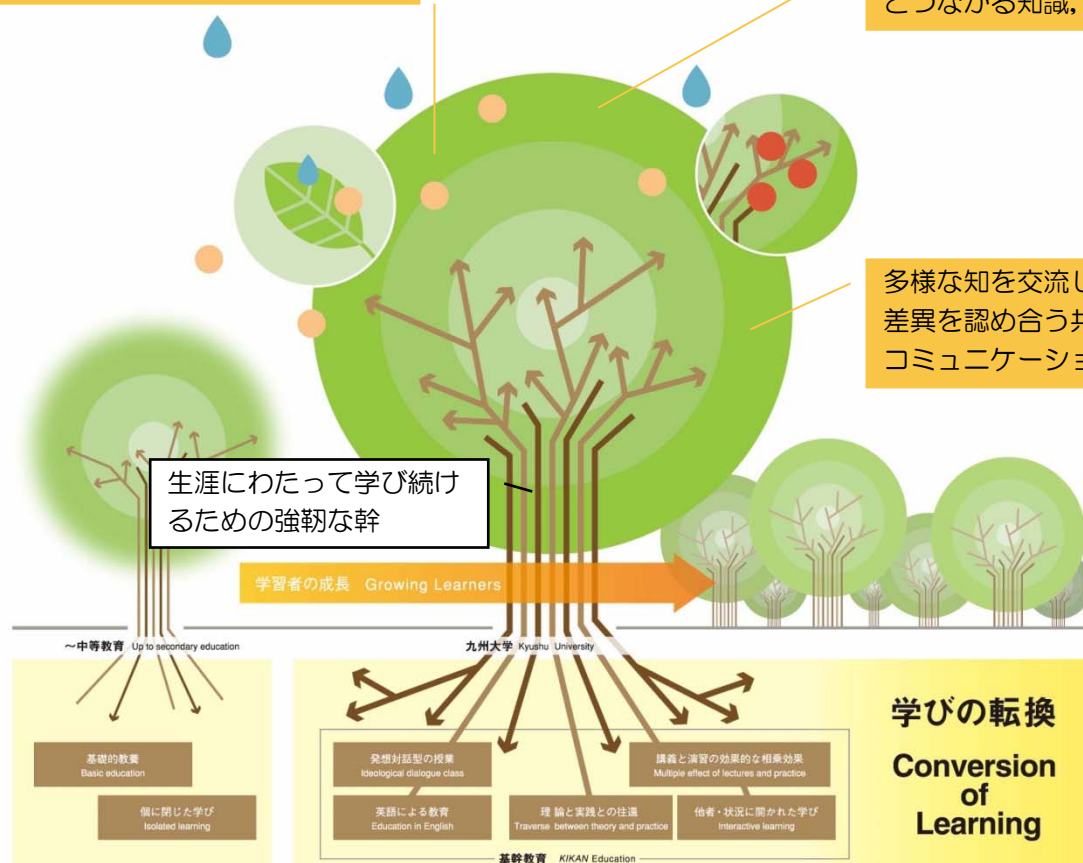
1. 進展するグローバル社会で求められる、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能を身につけよう。
2. 新たな知や技能を創出し未知な問題を解決する力である「ものの見方・考え方・学び方」を身につけよう。
既存の知識から解答を探すのではなく、自発的に問題を提起し、創造的・批判的に吟味検討することができる主体的な学び方を身につけよう。
3. ものの見方・考え方・価値観の異なる人と多様な知を交流し活動する能力、差異を認め合う共感性、そして問題解決へと導くコミュニケーション能力を磨こう。
他者との対話、共に学ぶ協働、そして自らを振り返る内省のサイクルを通じての力を高めよう。
4. 生涯にわたって学び続ける強靱な幹を育もう。



課題を発見し、創造的・批判的に吟味検討する主体的な学び

深い専門性、豊かな教養へとつながる知識、技能

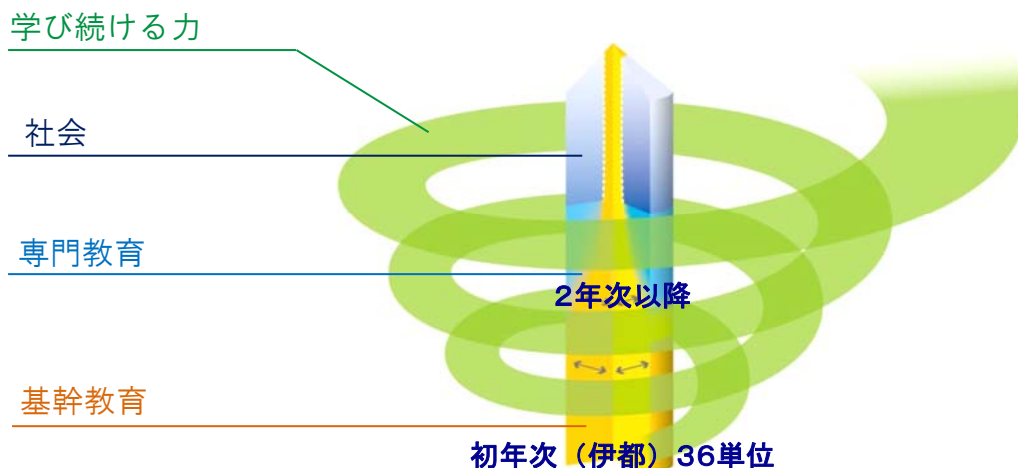
多様な知を交流し活動する力
差異を認め合う共感性
コミュニケーション能力



2 基幹教育科目の構成と各科目区分の目的・目標の解説

基幹教育科目は、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目および高年次基幹教育科目からなっています。

初年次の履修（36単位）に加え、2年次以降も専攻教育と連動しながら履修します。



【基幹教育セミナー】

科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められます。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える〈学びの基幹〉です。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度です。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが〈学びの基幹〉を育むことを目的としています。

学修目標として、①一人ひとりが自らの大学における学びについて、関連する知見を広く吸収しつつ、自らに問いかけ他者に伝え、また他者からの反応を受け止める体験を通じて、大学における学びへの意欲を高めること、②こうした仲間との対話や自己省察から新たな気づきや疑問を発見する過程を通じて、創造的・批判的に問題に取り組み学んでいく態度を培うこと、③対話や省察を通じて得た自らの学びが持つ可能性や意義、今後の展望等についてプレゼンテーションができるようになること、④このような学びのプロセスにおいて自分がどのように成長したいのか、自分の言葉で表現できるようになることを目指します。

【課題協学科目】

この科目では、現代社会が抱える様々な課題や問題の中から授業テーマを設定し、そのテーマに対する文系・理系にまたがる複数の学問的なアプローチを提示します。みなさんが幅広い視野と考え方を修得するとともに、文系・理系学部混成のグループで議論し合う協働学習により、思考能力を高め、他者と協力しながら自主的に学習を進めることのできる姿勢を身に付けることを目標としています。

【言語文化科目】

言語文化科目は、外国語で目標の課題を達成することができる言語運用能力の習得を目指します。また、外国語の背景にある異文化に対する理解を深めながら、母語や自国の文化を相対化する力を養います。英語科目においてはより高度な運用能力を習得できるよう、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの学習に加え、英語によるプレゼンテーションやディベートへとステップアップできる授業を設けています。また、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国語、スペイン語などの初修外国語の授業では、初めて習う言語そのものの学習だけでなく、その言語の発想法や背景における文化を理解することで、思考の幅広さを涵養することを目標にしています。

【ディシプリンとは】

「ディシプリン “discipline”」のdiscipleは「弟子」「門人」という意味であり、学問の世界でのディシプリンとは職人が弟子に技術を伝えるように学術研究をするための訓練のことをいいます。それぞれの学問分野においてその学問を学ぶ上での基礎知識はもちろん、問題を解決していく方法やものの見方、表現の技法などがディシプリンに含まれます。すなわち、大学で特定の専門を身につけるといえるのはその学問を研究していくための訓練を積むことでもあります。基幹教育でのディシプリン科目はそれぞれの専門の分野を学ぶときに核となるディシプリンを磨くと共に他の学問領域のディシプリンを学び、幅広い世界観を持つことも狙いとしています。



【文系ディシプリン科目】

文系ディシプリン科目は、文系の多くの学問分野のディシプリンを一通り体得できるように設計しています。いろいろな学部のディシプリンを知り、多様な文系的思考に触れることで獲得した学問的教養は、すべての学生にとってアクティブ・ラーナーとなるための骨太の基幹を作るとともに、他の学問分野の方法・視点・ものの見方によって、自らの学びを相対化することにつながります。また、文系学生にとっては専門基礎科目として、豊かな教養に裏づけられた深い専門性を獲得するためのスタートアップになります。

現在、文系ディシプリン科目には以下の科目を設けています。

《哲学・思想入門，社会思想史，先史学入門，歴史学入門，文学・言語学入門，芸術学入門，文化人類学入門，地理学入門，社会学入門，心理学入門，現代教育学入門，教育基礎学入門，法学入門，政治学入門，経済学入門，経済史入門，The Law and Politics of International Society》

【理系ディシプリン科目】

理系ディシプリン科目では、興味と問題意識を持ち、自ら考えることで、知っているだけではない本当に使える知識あるいは知識を使える力を育てることを目標としています。教養・専門基礎・リメディアルの3つを意識した科目を設けています。

（1）教養としての自然科学（教養系）

《数学，物理学，化学，生物学，地球科学，感性・デザイン学，情報科学》

それぞれの科目が持つ学問領域の基礎的な素養を修得し、自らの生活や取り巻く環境との関わりを考えられるように授業内容を構成しています。理系専攻教育への積み上げのための基礎としてではなく、色々な自然科学科目を受講し、それらを自らつなげることで自然科学の素養を築いてもらうことを狙いとしています。

（2）専門基礎としての自然科学（専門基礎系）

《数学，物理学，化学，生物学，地球科学，感性・デザイン学，情報科学，自然科学総合実験》

理系分野の専攻教育に連続的につながるものとして、着実な積み上げにより系統的に学習できるように授業を構成しています。学際性を意識して自然科学の基礎を幅広く学習することで、専門分野をより深く考えたり高めたりすることも期待します。また、自然現象を研究し理解するためには、実験的手法は欠かせないものです。そこで、全理系学部・学科に共通した内容の自然科学総合実験を提供しています。そこでは、物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたり、それぞれのテーマに沿った観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験的手法を学びます。

(3) リメディアルからはじめる自然科学（リメディアル系）

《物理学，化学，生物学》

物理，生物，化学について高校で授業を受けなかったことや受験科目として選択していなかったことで生じる基礎的知識が不十分な部分や十分に整理されていない部分を補足して，専門分野へつなげられるようにするための科目を設けています。理系専攻教育へのスムーズな発展を狙いとしています。

【サイバーセキュリティ科目】

インターネットや ICT 技術の普及によって，サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっています。また，考慮すべき領域は，コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず，パソコンを持ち運んでいる時，あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた，サイバー空間全体に広がっています。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され，大学におけるセキュリティの教育に加え，国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められています。本講義では，学年，理系・文系を問わず，今後 ICT 国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として，セキュリティに関する基礎的な技術から法律，倫理まで幅広く学びます。

【健康・スポーツ科目】

健康・スポーツ科目では，心身ともに健やかな人材の育成を目的とします。そのために，主に身体運動やスポーツを媒介として，生活の基本となる健康・体力およびそれらを高めるための方法に関する正しい知識を獲得すること，ならびに様々な社会的要求に応えるために必要とされる心理社会的能力，いわゆるライフスキルを習得・向上させることを目標とします。各科目は，年次進行に伴って，これらの知識やスキルが段階的に向上していくように配置されています。これらの科目の履修により，自律的な健康行動に結びつくような運動スキルあるいはライフスキルの更なる向上を図ること，また，健康・運動・スポーツ科学にかかる理解を一層深めることができます。

【総合科目】

総合科目は，文系から理系，純粋から応用にわたる幅広いテーマと多種多様な授業形態（講義形式，演習形式，セミナー形式，集中講義形式，フィールド形式など）をもつ授業科目からなります。主体的に課題を発見し探求して新たな知を深化・創造していく場であり，そして異分野の人との交流による知の創造・進展の場です。九州大学の教員が自主的に開講する授業に加え，QREC や各研究機関，他大学と連携して行われる授業もあります。授業を通じて得られる多様な知識の修得，知識に至る考え方の過程の経験や他者との交流から得られる創造的・批判的な思考の方法の涵養を目標としています。

【高年次基幹教育科目】

高年次基幹教育科目はすべての2年生以上を対象に各キャンパスで開講されます。それらは，専攻教育の学修による知識の深化を背景として生まれてくる，より多様で幅広い教養への興味，専門性の一步先にある有用な知識やスキルに対するニーズを満たす科目からなります。専門性を契機として生まれるアクティブな学びの広がりや深まりを促すことを目標としています。

